

令和 7 年度

岩手県立盛岡第三高等学校

SRH 事業実施報告

(第 9 年次・最終)

I I 年次の取組

(1) フィールドワーク導入の背景

今年度、新たな試みとして、令和7年10月28日午後にフィールドワークを実施しました。

従来、教室内での学習を中心としていた探究活動に対し、実際に現地へ足を運び、自らの目で見て、耳で聞き、体験を通して課題を発見する機会を設けることによって、より実践的な学びの実現を目指しました。

近年、探究活動においては、知識を一方的に習得するだけではなく、実社会とのつながりを意識しながら学ぶことの重要性が指摘されています。本校においても、地域社会に存在する課題や特色に目を向けることで、生徒が主体的に問いを見だし、探究を深める力を育成することを目的として、フィールドワークを導入しました。

(2) 事前学習と問いの設定

フィールドワークに先立ち、生徒たちは地域課題や社会的課題について調査を行い、自らの興味・関心に基づいてテーマを設定しました。

文献やインターネットによる情報収集を行うとともに、「なぜその現象が起こるのか」「どのような解決策が考えられるのか」といった視点から問いを立て、仮説の構築に取り組みました。

探究活動においては、問いの質が研究全体の方向性を大きく左右します。そのため、生徒たちは教員との対話や仲間との意見交換を通じて、自らの問いを何度も見直ししながら、研究の出発点となる課題設定を行いました。

(3) 現地調査の実施

フィールドワーク当日は、生徒一人ひとりが自ら設定したテーマに基づき、それぞれの調査対象へ赴きました。

実際の現場に足を運ぶことで、教室内では得ることのできない新たな気づきや発見を得ることができました。地域の人々との交流や現地での観察を通じて、事前に立てた仮説を検証するとともに、新たな課題や視点を見いだす生徒も多く見られました。

また、現地で得られた情報は、生徒自身の問題意識をさらに深める契機となり、探究活動に対する主体的な姿勢を育むことにつながりました。

(4) プレゼンテーションと振り返り・グループ探究への発展

調査終了後には、得られた成果についてプレゼンテーションを実施しました。発表を通じて、自らの考えを整理し、他者に分かりやすく伝える力を養うとともに、互いの研究成果を共有することで、多様な視点や考え方に触れる機会となりました。さらに、生徒同士による相互評価や教員からのフィードバックを通じて、自らの研究の課題を見つめ直し、次の探究活動へとつなげることができました。

こうした経験は、後期に実施したグループ探究へと発展していきました。個人での経験を基盤としながら、仲間と協力して課題解決に取り組むことで、協働的な学びの重要性を実感する生徒の姿が見られました。互いの意見を尊重しながら議論を重ね、一つの成果を創り上げていく過程を通じて、コミュニケーション能力や協調性、課題解決能力など、将来社会で求められる資質・能力の育成にもつながっています。

(5) I 年次探究テーマ一覧

I 年次【グループ探究】	
No.	探究テーマ
1	薬の過剰摂取による体の悪影響は？薬に含まれるなんの物質によって害が及ぼされるのか？
2	地域医療
3	視力に関わる医療技術や道具、涙膜について、メガネが与える印象
4	睡眠が与える学習への影響
5	医療技術の進歩による患者の回復過程と、変化する医療現場のあり方について
6	看護の課題
7	短時間で質の良い睡眠をとるにはどうすれば良いのか
8	災害でインフラが途絶した緊急時、AI 技術はどの程度活用でき、救命率の向上に貢献できるのか？
9	医療技術と人の関係
10	美白について
11	どのようにして不安や悩みを相談できる場所がない子供たちが相談できる場所を作ることができるのか
12	どのような環境が集中力を向上させるのか。また、低下させるのか。
13	世界(発展途上国)の教育格差から自分たちにできることはなにか。
14	人の心に影響する行動は何なのか。
15	自閉スペクトラム症の人が自分の力を発揮できる環境は何か
16	人に物事を伝える効率的な方法
17	AI を活用すべきか・発言をさせるべきか・怖い先生と優しい先生はどちらがいいのか
18	犯罪を犯す人の生い立ちや家庭環境について
19	コミュニケーションのとり方とその深め方
20	仕事の割に収入が低くても生活を安定させるためにはどうすればよいのか
21	眠くならない授業について
22	ジェンダーやセクシュアリティについて、日本はなぜこんなにも遅れている？北欧などと何が違う？
23	性格診断における自己評価と他者評価の違いについて
24	AI の進化に伴う悪用への向き合い方
25	機械や AI の仕組みや利用について
26	エネルギーの移動について
27	スマホと生活はどのように関わっているのか。
28	これから台頭するであろう効率的なエネルギー技術
29	化石燃料から発電効率の高い再生可能エネルギーにシフトできるのか
30	AI と人間の要約能力にはどのような違いがあるのか

Ⅰ 年次【グループ 探究】	
No.	探究テーマ
31	音楽について
32	音楽が人の心理に与える影響とは
33	ある曲を聴くと過去の記憶が鮮明に蘇るのはなぜか
34	ニューヨークタイムズで盛岡が取り上げられるまでにどう発展してきたか
35	人は、どのような情報によってものやサービスを買いたくなるのか
36	照明の色や明るさによって観客の感じる舞台の雰囲気はどう変わるのか
37	盛岡の食文化の特徴、魅力
38	なんで岩手の文学は発展したのか？
39	広告デザインについて
40	神と人のつながり
41	「人や国の不平等をなくそう」と「平和と公正を全ての人に」がSDGsの項目に入った背景と日本が日本がで
42	岩手の魅力が伝わる場所はどこか
43	成功する企業の商品戦略の比較
44	なぜ都市部に人口が流出してしまうのか？
45	今の盛岡の経済状況
46	語学学習を通して身につけた英語力とネイティブ英語の表現のギャップについて
47	住みたい町と離れる町の違いはなにか
48	起業したり、経営者になるために大切なことは？
49	米の高騰とその影響
50	日本の経済を支える「取引」の仕組みはどのように作られているのか
51	時代の変化に合わせたニーズと今まで受け継がれてきたものをどのようなバランスで両立させていくのか
52	地震の前兆と災害後の地域の盛り上がり
53	プロスポーツチームと地域経済や地域活性化にもたらす影響とは
54	発展途上国と先進国の特徴的な気候の違いとその影響は何か。
55	災害にも耐えられる家の構造と材質
56	混乱混雑を防ぐ電車のダイヤは何か
57	地震被害の広がり方とその対策
58	プレッシャー・緊張がパフォーマンスにどう影響を与えるのか
59	新しく見つけた数学の法則性の証明
60	探究心を育てることのできる数学の授業とはどのようなものか。

Ⅰ年次【グループ探究】	
No.	探究テーマ
61	小谷地先生の授業はなぜ面白いのか
62	電離層と地震の関係
63	ペットの行動問題（攻撃、吠え、異常行動など）は、飼い主との関係性の質によってどのように変化するか？
64	高校生の平均摂取量と比較して、アスリートがフィジカル強化と怪我の予防のためにより多く摂るべき五大栄養素
65	食事に関する考え方(ビーガン等)は化学的、一般的にみても良いものなのか
66	三高生に必要な栄養は何か。
67	食への依存と心理の関係
68	三高生にあった多様なグミを作り出そう！
69	保存料を用いた食品の腐敗スピードの比較
70	ゴミの少ない食事とは
71	環境の変化によって変わっている野生動物が行動範囲を変えたことによって、今まであまり動物と関わってこ
72	岩手県各地の植生をそれぞれ調査し、さらにその中で食用の雑草がどのように生えているか。
73	なぜ馬と共に行う農業が廃れてしまったか。そして、それを再興させるための方法を考える。
74	小学生に向けた温暖化についての教育
75	運動によっての筋痙攣と食生活の関係性

2 2年1～6組（文系・理系）の取組

（1）個人探究の意義

2年生普通科では、年間を通じて個人探究に取り組みました。生徒一人ひとりが自らの興味・関心や将来の進路希望、身近な疑問などを出発点として研究テーマを設定し、主体的に探究活動を進めてきました。

個人探究は、与えられた課題に取り組むだけではなく、自ら課題を発見し、その解決に向けて必要な情報を収集・整理しながら考察を深めていく活動です。このような学習を通じて、生徒たちは知識の習得にとどまらず、思考力や判断力、表現力を高めるとともに、自ら学び続ける姿勢を身に付けていきました。また、探究活動を通して、自分自身の興味や適性を見つめ直し、将来の進路や生き方について考える機会ともなりました。

（2）年間を通じた研究活動

研究活動は、テーマ設定から始まり、文献調査、アンケート調査、インタビュー、データ分析など、それぞれの研究内容に応じた方法を用いて進められました。

生徒たちは、研究を進める過程において、思うように情報が集まらなかったり、仮説どおりの結果が得られなかったりする場面にも直面しました。しかし、そのような経験を通じて、研究とは単に答えを求める作業ではなく、試行錯誤を重ねながら課題に向き合う過程そのものであることを学んでいきました。また、研究を進める中で新たな疑問が生まれ、当初設定したテーマを見直したり、視点を変更したりする生徒も見られました。このような柔軟な姿勢も、探究活動を通じて育まれた重要な力の一つであると考えています。

（3）フィールドワークによる研究の深化

今年度、2年生においても1年次と同様、令和7年10月24日にフィールドワークを実施しました。

これまで校内での調査や文献研究を中心としていた探究活動に対し、実際に現地へ赴いて調査を行うことで、より具体的で実践的な学びへと発展させることを目的としました。

水沢方面へ調査に向かった生徒もあり、地域の歴史や産業、文化、環境などについて現地で直接情報を収集しました。実際に現場を見ることで、文献だけでは把握できない現状や課題に気付くことができ、研究内容をより深く考察するきっかけとなりました。

現地調査を経験した生徒たちからは、「実際に見てみることで新しい疑問が生まれた」「想像していたものと現実との違いに気付くことができた」といった声も聞かれ、探究活動の質の向上につながる成果が見られました。

（4）問いの再構成と探究の深化

探究活動では、研究を進める中で当初の問いを見直し、新たな視点から研究を再構成することも重要です。

フィールドワークや情報収集を通じて得られた知見をもとに、生徒たちは自らの研究を振り返り、必要に応じて仮説や研究方法を修正しながら探究を進めていきました。こうした過程を通じて、生徒たちは物事を多面的に捉える視点を身に付けるとともに、論理的に考察を行う力を育てていきました。また、一つの答えを求めるだけではなく、「なぜそうなるのか」「他にどのような可能性があるのか」といった問いを繰り返しながら研究を深める姿勢が見られるようになりました。

（５）対話を通じた学び

探究活動は、一人で完結するものではありません。研究内容について仲間同士で意見交換を行ったり、教員から助言を受けたりすることで、生徒たちは自分では気付かなかった視点や考え方に触れることができました。他者との対話を通じて研究内容を見直すことで、考察をより深めることができるだけでなく、自らの考えを相手に分かりやすく伝える力や、異なる意見を受け入れる姿勢も育まれていきました。このような協働的な学びは、探究活動を支える重要な要素であり、生徒たちの成長を促す大きな原動力となっています。

（６）主体的な学習者の育成

一年間にわたる個人探究を通じて、生徒たちは自ら課題を設定し、計画を立て、情報を収集しながら研究を進める経験を積み重ねてきました。その過程において、失敗や試行錯誤を繰り返しながらも、最後まで粘り強く課題に取り組む姿勢が育まれていきました。探究活動によって身に付けた主体性や問題解決能力、論理的思考力、表現力は、高等学校卒業後の大学での学びや、将来社会に出てからも必要となる重要な資質・能力です。本校では、こうした探究活動を通じて、生徒一人ひとりが自ら学び、自ら成長し続けることのできる「主体的な学習者」として育っていくことを目指しています。

(7) 2 学年探究テーマ一覧

2 年生【個人探究】	
No.	探究テーマ
1	色と感情の関係性
2	本離れの進む現代に、書籍の売り上げを伸ばすにはどうすればよいのか？
3	笑いのツボが人によって違うのはなぜか
4	冷たい毛布
5	推し活から見る現代社会
6	牛と地球温暖化の関係
7	なぜ企業の不祥事はなくならないのか？
8	商店街のこれまでとこれから
9	色彩心理学について
10	外国人の視点からみる岩手県の魅力と課題 -県民との交流がもたらす効果
11	ルッキズムは「悪」なのか
12	ペットと人の付き合い方とは？
13	音楽の効果
14	国際試合がもたらすものとは？
15	生成 AI は短歌をつくることができるのか
16	なぜ緊張するのか
17	AI と話すときと人と話すときの満足度の違い
18	筋トレをすると将棋は強くなるのか
19	日本にも導入できる外国の政治制度とは？
20	フィリピンのカルチャーショックから読み解くナショナリティー
21	音楽の力とは何か
22	資源と貧困の関係性
23	動物と人間の絆について
24	身体の柔軟性はどのようにしてスポーツに反映できるか
25	性教育と少子化
26	森林と地域の発展はどのように関わっているのか
27	緊張を上手に対処する方法
28	童話「シンデレラ」から考える文化の違い
29	東京ディズニーリゾートに学ぶ、日本の教育の魅力づくり
30	人の第一印象は何秒で決まるか

2 年生【個人探究】	
No.	探究テーマ
31	なぜイスラム教は信者を保てるのか
32	池
33	「かわいい」はどのように”売れる形”として店頭で表現されているのか？
34	睡眠の質を高める商品や行動は本当に効果があるのか
35	身体能力を向上させるためにはどのようなトレーニングをすれば良いか
36	投資で将来は食べていけるのか
37	「推し活」の意義と人間の心理
38	企業と企業の関わりはどのようなものか
39	BGM はわたしたちの行動を操っているのか
40	好きな音楽によって人の性格はわかるのか
41	ディズニー魔法の作り方
42	『みんな違ってみんないい』をどう実現するか？
43	紫外線との向き合い方
44	Instagram と TikTok で自己肯定感に与える影響の違い
45	ローカルカフェの経済価値
46	ピッチがピンチ！～チューニングの公式作り～
47	英語への苦手意識をなくす
48	より効果的なトレーニングについて
49	どの株が上がるのか
50	応援、緊張はパフォーマンスにどのような影響を与えるのか
51	ドラマの裏方の仕事の工夫は、どのように感情を増幅させているのか
52	流行とはなんなのか
53	岩手県の喫茶店の魅力とは
54	見たい夢を見る方法
55	SNS の”バズ”現象から見る化粧品市場のマーケティング
56	ティディベアはなぜ世界中で愛されてきたのか
57	教育分野の国際協力における 支援とは何か -高校生が果たせる役割-
58	曲のコード進行による感情操作
59	野球都市を作りたい（スポーツによる地方での影響力をどこまで伸ばし、関係人口を創出できるか）
60	どこからが著作物になるのか？

2 年生【個人探究】	
No.	探究テーマ
61	人が集まる公共空間の役割とこれから何が求められるか
62	睡眠学習は実現可能なのか
63	なぜギリシャ神話が由来の言葉が現代まで 使われ続けているのか
64	グローバル化による各国の価格の均一化
65	宇宙エネルギーと繋がることはできるのか？
66	ブライスリーダーの存在を考える
67	交通取り締まりは本当に交通事故を減らしているのか。
68	小説から学ぶ、上手い脚本の書き方とは？
69	なぜフランスにはルーズなマナーがあるのか
70	スタバとコメダで語る経営戦略
71	外国人観光客が地域の環境に与える影響
72	人気は偶然か戦略か
73	古語はどのように変遷してきたのか？
74	コミュニケーション能力を高めるためには
75	少子高齢化社会の中で外国人と共生していくにはどうしたらよいのか？
76	世界の学校から学ぶ！理想の学校生活とは
77	クラシック音楽で開く異文化理解への扉
78	再流行を活用したマーケティングは、意図的にヒット商品を生み出せるのか
79	地方創生と映画を掛け合せた新たな取り組み
80	映画は、貧困と格差をどのように描いているのか
81	リップの選び方
82	戦争は何を基準に終結するのか
83	韓国ドラマが世界で人気の理由と世界における役割
84	VIP 戦略からみる体験価値ニーズとは？
85	人の先延ばしについて
86	おもちゃはなぜ時代を超えて残り続けるのか
87	韓国ドラマの流行が日本に与えた影響
88	なぜ人は悩むのか？
89	自転車の交通違反
90	推し活と宗教の類似性

2 年生【個人探究】	
No.	探究テーマ
91	なぜ錯視は起きるのか
92	回転を生かしたボールの動きと戦略とは
93	手作り飛行機を作るには
94	身近な錯覚(ディズニーランド)
95	スマート農業によって地域を活性化するには
96	臨床検査の診断精度を向上させるには
97	プラシーボ効果について
98	生物が与える影響
99	MBTI を活用してより良い人間関係を築くには
100	偏見と脳の構造について
101	ユニークなパッケージデザインと売れ行きの関係
102	弓道の的中率を上げるには
103	スポーツにおけるルーティンの効果とは
104	他の惑星にテラフォーミングは可能なのか？
105	電気の発見時期と現在までの発展はどのようなものだったか
106	美味しさを感じる仕組みとは
107	肌をきれいにするには
108	岩手県のスマート農業について
109	食べ物と脳梗塞の関係
110	ハンドボールにおいて競技人口と国際大会の成績に相関はあるのか
111	なぜ人は自動販売機を使うのか
112	タブレットを有効的に使った学習とは
113	メタパースを活用した国際交流は従来より交流の質を高められるか
114	学校空間が人に与える影響
115	新生児死・新生児仮死を減らすために
116	記憶に残る体験の作り方
117	AI と創業の関係と私たちへの影響
118	現代の情報化社会において音楽はどのように変化してきたのか
119	盛岡市の交通の現状
120	船舶の自動運転には何が必要か

2 年生【個人探究】	
No.	探究テーマ
121	言語と国民性にはどのような関係があるのか？
122	建築物の印象
123	美しく見えるものはなぜ美しいのか
124	疲労回復を早める生活習慣はあるのか
125	医療現場における AI の役割
126	震えを治す
127	ディーゼルエンジンは実は優れものなのか？
128	人間の運動機能
129	変化球について
130	跳躍動作における成功する選手とそうでない選手の違い
131	チーム医療においてしょうに看護師に求められることと重要性とは
132	桔梗信玄餅と金精軒の信玄餅の違いはなにか
133	なぜ夜はポエマーみたいになるのか。
134	ネコ科動物の身体能力とその応用
135	風邪を早く治すために
136	スマホ 1 台で被害者へ
137	吹奏楽におけるコントラバスの存在意義について
138	岩手県の音楽の発展に向けて
139	ゲームと学業成績との関係性
140	みんなで支える子育て社会へ
141	自転車ですぐ学校に行く方法
142	声出しの意味とは
143	ストレスに負けない生活習慣とは？
144	全ての世代から愛されるお店になるには？
145	洋画のおもしろさについて
146	猫と良好な関係を築いていくためのアプローチとは？
147	図書館の存在意義とは
148	音楽を医療に活かす
149	朝型と夜型のハイブリット社会の実現に向けて
150	スマホ時間を減らせば、メンタルは強くなるのか？

2 年生【個人探究】	
No.	探究テーマ
151	高いジャンプをするには
152	身長の高い選手がバレーボールで活躍するために
153	猫の言葉を人が理解するためには
154	超集中状態である「ゾーン」を自分で作り出して、質の高い学習はできるのか
155	ここぞ、というときに最大限の力を発揮するために。
156	日常生活における音楽療法の可能性
157	高校生に適切な授業時間何分か。
158	日本の多い名字はなぜ多いのか
159	一番集中できる勉強プランとは
160	良い姿勢が健康維持に及ぼす影響
161	鉄道の優等種別の必要性和社会に与える影響とは
162	応援がもたらす影響
163	なぜカフェは落ち着くと思うのか
164	トマトを食べたい
165	食養生で東北大会に行けるのか？
166	音楽が現代まで受け入れられたのはなぜか？
167	絶対に渋滞しないまちづくり
168	タトゥー＝怖いイメージはどこから？
169	おならをなくすには
170	ツキノワグマと人間は共存できるか
171	エルサの魔法は国にどのような影響を及ぼしたのか
172	カンガルーみたいに跳ぶには
173	夢のコントロールは可能なのか
174	人はなぜ他人と比べるのか？
175	占いに頼ることは出された結果に関係なく運気を上げることはできるのか？
176	生成 AI は美味しい料理を作れるのか
177	人はなぜ夢を見るのか、心身との関係性
178	短距離と投擲の関係性
179	過疎地域に貢献する方法
180	記憶の仕組みについて

2 年生【個人探究】	
No.	探究テーマ
181	「病は気から」を他人に作用させることはできるか
182	AI に対する言葉遣いとコストと性能の関係性について
183	計算ミスをしないうための文字式で使う文字
184	ストレス緩和方法～その場に適したにおいて環境作り～
185	勉強中にテキストに反射した光で眩しくなるのを防ぎたい
186	都市の課題と建築の繋がりとは
187	トマトが好きな野菜ランキングでも上位で嫌いな野菜ランキングでも上位な理由
188	養護教諭の役割とは？
189	AI やロボットが発展した将来で勉強、労働は必要なのか
190	手汗対策
191	健康食品のウソホント
192	夢と記憶の関係
193	理想的な保健室
194	後悔のない買い物をするには
195	声と容姿が第一印象に与える影響とは？
196	自転車通学における、登校時間を短縮するには？
197	マーケティングがもたらす心理操作
198	交通を発展させるために
199	ディズニーリゾートはどのように「夢の国」を作り上げているのか
200	スポーツテックはどのように活用されるべきか
201	大会で力を発揮するための食事
202	高校生の理想的な生活習慣とは
203	心身共に健康な食事とは？
204	血液型と関連のある病気はあるのか？
205	ゲームは人の行動をどのように変化させるのか
206	植物を活用して虫除け
207	「ピンク色=いちご味」というイメージはどのようにして社会に定着したのか
208	カフェインに頼らない！体に優しい眠気覚ましとは
209	無意識とは何なのか
210	AI にはどのくらい頼るべきか

2 年生【個人探究】	
No.	探究テーマ
211	最高の睡眠
212	においと味
213	小児の食物アレルギーについて
214	可愛い個人差について
215	小児の服薬について
216	食と幸福感の関係
217	意図的にゾーンに入るにはどうしたら良いか
218	便利と不便のバランス
219	永久機関を実現させるには

3 2年7組（理数探究コース）の取組

（1）理数探究コースの特色

2年7組理数探究コースでは、理科・数学・情報を中心とした高度な課題研究に取り組みました。

科学技術が急速に進展する現代社会においては、自然現象や社会現象を科学的に捉え、データに基づいて論理的に考察する力が求められています。本コースでは、生徒一人ひとりの興味・関心を大切にしながら、専門的な知識と科学的な探究手法を身に付けることを目指し、年間を通じた研究活動を展開してきました。

研究テーマは多岐にわたり、身近な現象の解明から社会的課題の解決につながる研究まで、生徒たちはそれぞれの問題意識に基づいて主体的に研究を進め成果を得ることができました。

（2）年間を通じた研究活動

課題研究は、生徒自らが研究テーマを設定し、仮説を立て、実験や観察、データ分析などを通して検証を行う、本格的な探究活動です。単に知識を習得するだけではなく、研究計画の立案から成果の発表に至るまで、一連の研究活動を主体的に進めることによって、科学的な思考力や問題解決能力を養うことを目指して活動を行ってきました。

研究活動を進める過程では、期待した結果が得られないことや、仮説の修正を余儀なくされることも少なくありません。しかし、そのような試行錯誤の積み重ねこそが研究活動の本質であり、生徒たちは失敗を恐れず粘り強く課題に向き合う姿勢を身に付けていきました。また、研究を通じて得られた成果を他者に分かりやすく伝えることも重要な学習の一環であり、論理的な表現力やプレゼンテーション能力の向上にもつながりました。

（3）校外発表会への積極的な参加

令和7年12月に開催された岩手県理科学研究発表会をはじめ、他校で開催された探究発表会にも積極的に参加しました。

校外での発表は、日頃の研究成果を広く発信する機会であると同時に、他校の生徒たちの研究に触れることによって、自らの研究を客観的に見つめ直す貴重な機会となっています。異なる視点や多様な研究テーマに触れることで、新たな発想や課題意識が生まれ、研究内容のさらなる深化につながっています。また、多くの聴衆の前で発表を行う経験を通じて、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力も大きく向上しました。

（4）大学との連携による研究の深化

理数探究コースでは、大学との連携を重視し、専門的な知見を取り入れながら研究活動を進めてきました。大学教員から研究手法や考察の進め方について助言をいただくことで、生徒たちはより科学的かつ論理的な視点から研究に取り組むことができました。研究活動を進める中では、単に実験や観察を行うだけではなく、得られたデータをどのように解釈するか、どのような視点で考察を行うかが重要になります。大学教員による専門的な助言は、生徒たちの研究内容をさらに深めるだけでなく、研究者としてのものの見方や考え方に触れる貴重な機会ともなりました。また、大学との連携は、生徒たちにとって将来の進路や学問に対する興味・関心を高める契機ともなっており、探究活動を通じたキャリア形成にも大きく寄与しています。

(5) 研究成果と各種受賞

一年間にわたる研究活動の成果は、各種発表会やコンクールにおいて高く評価されました。

岩手県高等学校総合文化祭自然科学部門研究発表では、「音波消火器の実用化」が最優秀賞を受賞するとともに、「光触媒による残留医薬品の分解」が優秀賞を受賞するなど、優れた研究成果を収めることができました。

これらの成果は、生徒たちの不断の努力と主体的な研究活動の積み重ねによるものであり、また、教員による継続的な指導や大学との連携によって支えられた成果でもあります。受賞という結果だけではなく、課題を発見し、仮説を立て、試行錯誤を繰り返しながら研究を進めた経験そのものが、生徒たちにとって大きな財産となっています。



(6) 科学的人材の育成

理数探究コースにおける課題研究は、単に研究成果を上げることを目的とするものではありません。未知の課題に対して主体的に挑戦し、論理的に考察しながら解決策を見いだしていく力を育成することが、その根底にあります。科学技術が急速に発展し、社会が大きく変化する現代においては、既存の知識だけでは対応できない課題が数多く存在します。そのような時代だからこそ、自ら考え、他者と協働しながら新たな価値を創造していく力が求められています。理数探究コースでの学びを通じて、生徒たちは科学的な思考力や創造力を身に付けるとともに、社会のさまざまな分野で活躍できる人材として成長していくことが期待されています。また、本コースで培われた探究の精神は、大学進学後や将来の研究活動のみならず、社会人として生涯にわたって学び続ける姿勢の基盤となるものです。

今後本校では、理数探究コースで培ったノウハウを継承し、総合的な探究の時間での指導及び探究活動へ活かし、科学的素養と豊かな人間性を兼ね備えた人材の育成に努めていきます。

(7) 理数探究コース探究テーマ一覧

2 年 7 組理探コース【グループ 探究】	
物理 1	ケルビン発電機の効率化
物理 2	音波消火器の実用化
化学 1	ゼオライトを用いた二酸化炭素回収と実用化
化学 2	光触媒による残留医薬品の分解
生物 1	アリの巣におけるカビの拡散と拮抗作用
生物 2	ザリガニの体内のカロテノプロテイン
生物 3	野菜由来の液肥による水耕栽培
情報班	地形と津波の関係性について
数学班	立体斜視の利用

4 3年次の取組（文系・理系・理数探究コース）

（１）探究活動の集大成としての「ミニ論文」

3年生では、これまで継続して取り組んできた探究活動の成果を「ミニ論文」としてまとめ、1年生から積み重ねてきた課題設定の方法や情報収集、考察、発表といった一連の探究活動を振り返りながら、自らの研究内容を文章として整理し、論理的に表現することに取り組みました。

論文を執筆するためには、自分自身の考えを客観的に見つめ直し、研究の目的や方法、得られた結果、考察などを体系的に整理する必要があります。その過程を通して、生徒たちは論理的な思考力や表現力をさらに高めていきました。また、これまで取り組んできた研究を一つの形としてまとめ上げる経験は、自らの成長を実感するとともに、探究活動の意義を改めて認識する機会にもなりました。

（２）再調査と考察の深化

ミニ論文の作成に当たっては、既存の研究内容をまとめるだけではなく、必要に応じて追加の調査やデータ収集を行う生徒の姿も見られました。また新たな資料を収集したり、過去の調査結果を改めて分析したりすることで、研究内容をより深く考察しようとする姿勢が見られました。

探究活動において重要なのは、単に結論を導き出すことではなく、その結論に至るまでの過程を丁寧に積み重ねていくことです。生徒たちは、研究の過程を振り返りながら、自らの考えをさらに発展させ、より説得力のある論文となるよう試行錯誤を重ねていきました。このような姿勢は、高等学校卒業後の学びや研究活動にもつながる重要な資質であり、生涯にわたって学び続ける力の基盤となるものです。

（３）「学びの自走」の実現

探究活動を通じて、3年生には「学びの自走」とも呼ぶべき姿が数多く見られました。自ら課題を設定し、必要な情報を収集しながら研究を進め、課題に直面した際には解決策を模索しながら粘り強く取り組む姿勢は、まさに主体的な学習者としての成長を示すものです。教員から与えられた課題に取り組むだけではなく、自らの興味・関心に基づいて学びを深めていく経験は、大学や社会においても求められる重要な力となります。

本校では、探究活動を通じて「自ら学び続ける人材」の育成を目指してきました。3年間の学びの集大成として、生徒たちの成長した姿が随所に見られたことは、大きな成果の一つであると考えています。

（４）将来につながる探究活動

探究活動によって培われた課題発見能力や論理的思考力、表現力、協働する力は、大学進学後の研究活動や、社会に出てからのさまざまな場面においても重要となる能力です。予測困難な時代を生きるこれからの若者たちにとって、自ら問いを立て、多様な人々と協働しながら課題解決に取り組む力は不可欠です。3年間の探究活動を通じて、生徒たちは知識や技能の習得にとどまらず、未来を切り拓くための基礎となる資質・能力を身に付けることができました。

5 中間発表会・SRH（ORP）発表会

（1）中間発表会

令和7年8月27日には校内において2-7理探コース在籍生徒による中間発表会を実施しました。研究の途中経過を発表することで、生徒たちは現時点での成果や課題を整理するとともに、他の研究グループの発表から新たな視点や研究手法を学ぶ機会を得ました。また、大学教員からの助言や生徒同士の意見交換を通じて、自らの研究を客観的に見つめ直し、今後の方向性について再検討する機会ともなりました。

研究活動は一度で完成するものではなく、発表と改善を繰り返しながら深化していくものです。中間発表会は、研究内容をより高いレベルへと発展させる上で重要な役割を果たしています。



(2) SRH (ORP) 発表会

令和8年2月19日に開催したSRH (ORP) 発表会では、1年次・2年生による対話型発表と、2年7組理数探究コースによる研究発表を実施しました。

発表会は、日頃の探究活動の成果を広く共有するとともに、生徒同士が互いの研究内容に触れ、新たな学びを得る場として重要な役割を担っています。また、自らの研究を他者に伝える経験を通じて、論理的な説明力や表現力を高める機会ともなっています。



(3) 対話を通じた学び

各発表会では、一方向的な発表だけではなく、対話を重視した活動が行われました。発表者と聴衆が互いに質問や意見交換を行うことによって、研究内容に対する理解が深まるとともに、新たな視点や課題を発見する機会となりました。このような対話的な学びは、探究活動をさらに深化させるだけではなく、多様な考え方を受け入れる姿勢や、他者と協働して課題解決に取り組む力の育成にもつながっています。



（４）大学との連携による専門的助言

各発表会では大学の先生方をお招きし、専門的な立場からご助言をいただきました。研究内容に対する具体的な指導や新たな視点の提示は、生徒たちにとって大きな刺激となり、今後の研究活動をさらに発展させる契機となりました。また、大学教員との交流を通じて、学問に対する興味・関心を深めるとともに、より高度な学びへの意欲を高めることにもつながっています。



6 海外研修

(1) 国際的な視野を育む海外研修

海外研修は、異なる文化や価値観に触れることを通して、生徒一人ひとりの国際的な視野を広げ、グローバル社会において主体的に活躍できる資質・能力を育成することを目的として実施しています。

現地での交流や施設見学を通して、日本とは異なる歴史や文化、社会の仕組みについて理解を深めるとともに、多様な価値観を尊重し、他者と協働する姿勢を育むことが期待されています。また、グローバル化が進展する現代社会においては、国や地域を越えて人々が協力しながら課題を解決していく力が求められており、海外研修はそのような力を育成する重要な教育活動として位置付けられています。

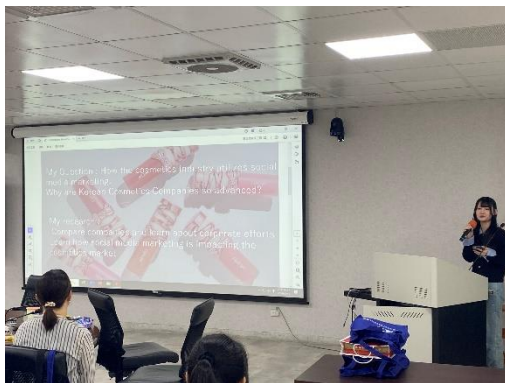
令和7年度は、昨年度に引き続き9名の生徒が台湾を訪問しました。台湾は日本と歴史的・経済的に深い結び付きがあり、近年では半導体産業をはじめとする先端技術分野においても世界的な存在感を高めています。本研修では、現地高校との交流をはじめ、大学や研究施設、博物館等を訪問することにより、歴史や文化、科学技術、産業などについて多角的に学ぶ機会となりました。

(2) 現地高校との交流

台北市の中崙高級中学を訪問し、現地の生徒との交流活動を行いました。学校生活や趣味、将来の夢などについて、英語や身振り手振りを交えながら積極的にコミュニケーションを図り、互いの文化や価値観について理解を深めることができました。

言葉や習慣の違いがある中でも、自ら積極的に意思を伝えようとする姿勢や、相手を理解しようとする気持ちの大切さを実感することができました。また、交流終了後も連絡を取り合う生徒も見られ、人と人とのつながりが国境を越えて広がっていくことを体験する機会となりました。

このような交流活動は、異文化理解を深めるだけでなく、多様な価値観を尊重しながら他者と協働する姿勢を育成する上でも大変意義深いものとなりました。



（３）台湾の歴史と文化に触れる学習

忠烈祠では衛兵交代式を見学し、中華民国の歴史や国家を支えてきた人々への敬意について理解を深めました。厳粛な雰囲気の中で行われる衛兵交代式からは、台湾の人々が大切にしている歴史観や価値観の一端を感じ取ることができました。

また、国立台湾博物館では、台湾の歴史や先住民族の文化、日本統治時代との関わりなどについて学び、日本と台湾の歴史的なつながりについて理解を深める機会となりました。二二八平和記念公園の見学を通して、台湾の近現代史について考える契機ともなりました。

さらに、国立故宮博物院では、中国歴代王朝の美術工芸品や文化財を見学し、東アジアの歴史や文化の豊かさに触れることができました。貴重な文化財や芸術作品を通して、長い歴史の中で培われてきた文化の価値について理解を深めることができました。



（４）科学技術と先端産業への理解

新竹サイエンスパーク内の科学園区探索館では、台湾の半導体産業をはじめとする先端技術について学びました。日常生活に身近な製品から最先端の技術まで幅広い展示に触れることで、台湾が世界有数の科学技術拠点であることを実感するとともに、技術革新が社会にもたらす影響について理解を深めることができました。

また、淡江大学では、AI や VR 技術を活用した体験学習を行いました。人工知能を利用したアプリ開発や仮想空間技術など、最先端の科学技術に触れることで、科学技術の進歩が社会や人々の生活を大きく変化させていることを実感することができました。

さらに、大学関係者や日本人留学生との交流を通して、台湾の高等教育や大学生活について理解を深めるとともに、進路や将来の可能性について考える貴重な機会となりました。



（５）持続可能な社会に向けた取組の学習

源鮮智慧農場では、土や農薬を使用しない植物工場による栽培システムを見学しました。環境負荷の低減や食料生産の安定化に向けた先進的な取組について学ぶことで、持続可能な社会の実現に向けた新たな可能性について理解を深めることができました。

従来の農業とは異なる生産方式や最新技術を活用した栽培方法について学ぶことにより、食料問題や環境問題に対する関心を高めるとともに、科学技術が持続可能な社会の実現に果たす役割について理解を深めることができました。



（６）台湾の生活文化と国際理解

士林夜市や西門町では、台湾ならではの食文化や人々の暮らしに触れることができました。夜市の活気ある雰囲気や多様な食文化に触れることで、日本との共通点や相違点について理解を深めることができました。

また、ランタンフェスティバルなどの伝統文化を体験することを通して、異なる文化や価値観を尊重する姿勢を育むことができました。現地の人々との触れ合いを通して、台湾の人々の温かさや親しみやすさに触れる機会にもなり、国際理解を深める上で大変有意義な経験となりました。



（７）研修成果

今回の海外研修を通して、生徒たちは台湾の歴史や文化、科学技術、産業、食文化などについて幅広く学ぶとともに、現地の人々との交流を通じて国際的な視野を広げることができました。

また、異文化理解やコミュニケーション能力の向上に加え、世界の動向や将来の進路について考える契機となるなど、生徒一人ひとりにとって大変有意義な研修となりました。

特に、現地高校生との交流や大学・研究施設の見学を通して、自らの将来像や進路について考える意識が高まるとともに、世界に目を向けて主体的に学び続ける姿勢を育むことができました。

今後も海外研修を通して多様な価値観に触れ、国際社会で活躍できる資質・能力を育成するとともに、広い視野を持って主体的に学び続ける人材の育成を目指していきます。

7 国内研修

(1) 国内研修の目的

持続可能な社会の実現に貢献できる人材の育成を目指すとともに、生命、エネルギー、環境問題などに関する理解を深め、変化の激しい VUCA 時代に求められる主体性や適応力、グローバルな視点を養うことを目的として実施しました。

(2) 令和7年度の研修

3月に2年7組の生徒がつくば市を訪れ、筑波研究学園都市を中心に、大学や研究機関、科学技術関連施設を訪問し、最先端の科学技術や研究活動に直接触れることで、科学的素養の向上と幅広い視野の育成を図りました。

最先端の研究施設において実際の研究現場に触れることは、生徒たちにとって極めて貴重な経験となりました。教科書や授業で学んだ内容が最前線の科学技術とどのようにつながっているのかを体感することで、科学に対する興味や関心を一層深めることができました。また、研究者の方々との交流を通じて、科学の面白さや研究の意義を直接学ぶことができ、大きな成果を得ることができました。

(3) 宇宙開発と国際協力について学んだ JAXA 筑波宇宙センター

初日は、JAXA 筑波宇宙センターを訪問しました。施設見学を通して、日本の宇宙開発の歴史や人工衛星、国際宇宙ステーション計画などについて理解を深めるとともに、宇宙開発が私たちの生活や科学技術の発展に果たしている役割について学ぶことができました。また、宇宙開発が一国のみで進められるものではなく、多くの国々との協力によって成り立っていることを知り、科学技術と国際協力との関わりについても理解を深める機会となりました。



(4) 筑波大学における模擬授業

続いて筑波大学を訪問し、模擬授業を受講しました。大学における研究活動や専門分野の学びについて理解を深めるとともに、創薬研究や化学分野における研究の重要性について学びました。また、高等学校で学んでいる内容が大学での専門的な研究へと発展していくことを知り、学問の奥深さや研究の魅力について理解を深めることができました。

大学の研究環境に触れたことは、生徒一人ひとりが自身の進路や将来について考える貴重な機会となりました。



(5) 最先端の基礎科学に触れた KEK 研修

2日目には、物理選択者が高エネルギー加速器研究機構（KEK）を訪問しました。

加速器科学や素粒子物理学についての講義を受けるとともに、放射光施設や超伝導加速空洞、Belle II 実験に関する施設などを見学し、世界最先端の研究現場に触れることができました。

普段の授業では学ぶ機会の少ない基礎科学の研究について理解を深めるとともに、未知の現象を解明しようとする研究者の姿勢に触れることで、科学に対する興味・関心を一層高めることができました。また、最先端の研究成果が将来的に社会や産業の発展につながっていくことを学び、基礎科学の重要性について理解を深めることができました。



（６）農業・生命科学に関する研究への理解

生物選択者は農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）を訪問し、研究紹介や施設見学を通して、農業科学や生命科学に関する最先端の研究について学びました。研究者による説明を受けながら、環境問題や食料問題に対応するための研究や、作物の生育に関する研究について理解を深めることができました。

「食と農の科学館」では、農業技術の発展や食料生産の歴史について学び、私たちの生活を支える科学技術の重要性について考える機会となりました。持続可能な社会の実現に向けて、農業や生命科学が果たす役割について理解を深めることのできる貴重な研修となりました。

（７）科学技術と社会とのつながりを学んだエキスポセンター

つくばエキスポセンターでは、宇宙やエネルギー、科学技術に関する展示を見学しました。体験型の展示を通して、科学技術が私たちの生活と密接に関わっていることを実感するとともに、科学を身近なものとして捉える機会となりました。科学技術の進歩が人々の暮らしや社会の発展に大きな影響を与えていることを理解し、科学への興味・関心をより一層高めることができました。

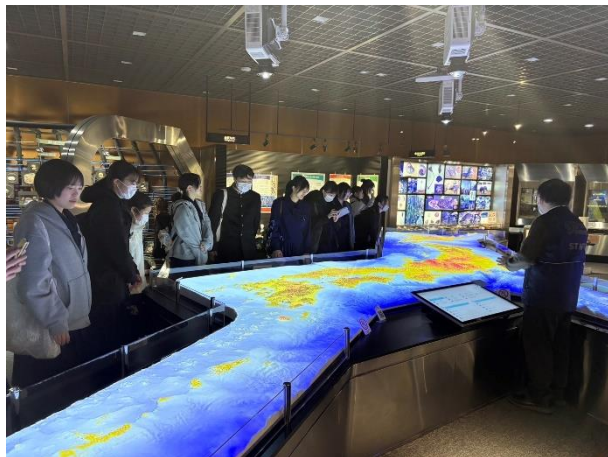
（８）産業技術総合研究所（AIST-Cube）における先端技術の学習

産業技術総合研究所（AIST）のAIST-Cubeでは、最先端の研究開発や社会実装について学びました。研究成果が産業や社会にどのように活用されているかを知ることによって、科学技術が社会課題の解決に果たす役割について理解を深めることができました。研究開発から実用化に至るまでの過程について学ぶことで、研究活動が社会と密接に結び付いていることを実感する機会となりました。



(9) 地球科学と長い時間軸を学んだ地質標本館

地質標本館では、地球の成り立ちや岩石、鉱物、化石などに関する展示を見学しました。地球環境の変遷や自然現象について学ぶことで、長い地球の歴史の中で現在の環境や社会を捉える視点を養うことができました。また、自然災害や資源問題など、現代社会が抱える課題についても理解を深める機会となりました。



(10) 未来社会を支えるロボット技術に触れたサイバーダインスタジオ

最終日には、サイバーダインスタジオを訪問しました。医療や介護分野で活用されているロボット技術やサイborg技術について学び、人とテクノロジーが共生する未来社会について理解を深めることができました。科学技術が人々の生活の質の向上や社会課題の解決に貢献していることを実感するとともに、今後の技術革新の可能性について考える機会となりました。



(11) 研修成果

今回の国内研修を通して、生徒たちは宇宙開発、素粒子物理学、生命科学、農業科学、地球科学、ロボット工学など、幅広い分野における最先端の研究や技術に触れることができました。

また、大学や研究機関において活躍する研究者や技術者の姿に接することで、学問の魅力や研究の意義について理解を深めるとともに、自らの進路や将来について考える貴重な機会となりました。

さらに、科学技術の発展が持続可能な社会の実現や人々の生活の向上に果たす役割について理解を深め、社会課題の解決に主体的に関わろうとする姿勢を育むことができました。

本研修を通じて得られた経験や学びを今後の探究活動や進路選択に生かすとともに、広い視野と科学的素養を備え、未来社会の発展に貢献できる人材の育成につなげていきます。

8 各種講座・講演会・研修会 一年間を通じた探究的な学びの充実

本校では今年度も、生徒一人ひとりの主体的な学びを支え、探究活動の深化を図るため、年間を通して大学教員や研究者、民間企業関係者等を講師として招聘し、多様な講演会や研修会を実施しました。これらの取組は、探究活動に必要な基礎的な技能の習得のみならず、地域社会やグローバル社会への視野を広げ、将来の進路や生き方について考える機会として位置付けています。

(1) 図書館ガイダンスによる情報活用能力の育成

令和7年4月から6月にかけて、全学年を対象として図書館ガイダンスを実施しました。講師には、岩手県立図書館サービス2課 岩持河奈子氏を迎え、「総合的な探究の時間」における先行研究調査や論文作成に必要な文献検索の方法や図書館の活用方法について講義をいただきました。

探究活動を進める上では、信頼性の高い情報を収集し、先行研究を踏まえながら課題を設定することが重要です。一方で、情報化の進展に伴い、多様な情報が容易に入手できるようになった現在、必要な情報を適切に収集・選択し、その内容を客観的に評価する能力がこれまで以上に求められています。

本ガイダンスでは、県立図書館が所蔵する資料の検索方法や各種データベースの利用方法について学ぶとともに、インターネット上の情報だけに依存することなく、書籍や学術資料など多様な情報源を活用しながら調査を進めることの重要性について理解を深めました。

また、文献調査は探究活動や論文作成の出発点となるものであり、適切な先行研究調査を行うことによって、自らの研究テーマをより明確にし、研究内容を深化させることにつながることも理解を深めることができました。特に、2年生及び3年生にとっては、個人探究や理数探究コースにおける課題研究、さらにはミニ論文の作成に向けた基礎的な技能を再確認する機会になりました。また、1年次にとっては、今後3年間にわたって取り組む探究活動の基盤となる情報活用能力を身に付ける貴重な機会となりました。生徒たちは、情報収集の方法や文献検索の意義について理解を深めるとともに、客観的な根拠に基づいて課題を考察する姿勢の重要性を認識することができました。

このような情報活用能力は、探究活動のみならず、大学進学後の学習や将来社会においても必要不可欠な資質・能力です。本校では、今後も図書館や関係機関との連携を図りながら、生徒の主体的な学びを支える情報リテラシー教育の充実に努めていきます。

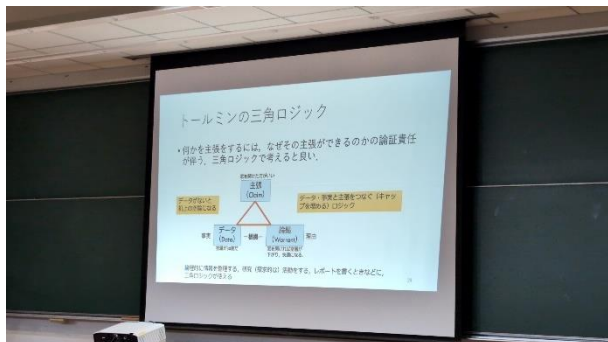


(2) データサイエンス入門講座

令和7年5月8日には、2年生を対象として「データサイエンス入門講座」を実施しました。

講師として、岩手県立大学ソフトウェア情報学部准教授 市川尚氏を招聘し、データサイエンスの基礎やデータ活用の意義について講義をいただきました。

近年、社会のさまざまな場面でデータに基づく意思決定が重要視されており、探究活動においても客観的な根拠に基づいて考察を行うことが求められています。本講座では、データの収集や分析、活用の考え方について学ぶとともに、自らの探究活動をより論理的かつ科学的に進めるための視点について理解を深めました。生徒たちは、データに基づいて現象を捉えることの重要性を認識し、探究活動を深化させるための基礎的な素養を身に付ける機会とすることができました。



(3) 緑丘ゼミによる探究マインドの醸成

令和7年5月27日には、全校生徒を対象として「緑丘ゼミ」を開催しました。

講師には、ベネッセ教育総合研究所 山下真司氏を迎え、『『探究』とは何か？～学びや進路、社会とのつながりを考える～』を演題として講演をいただきました。

講演では、探究的な学びと進路形成、さらには社会との関わりについて具体例を交えながら説明いただき、生徒たちは探究活動を自らの将来や生き方と結び付けて考える機会を得ることができました。また、課題研究に取り組む際の視点や論理的思考の重要性についても学び、探究活動に主体的に取り組む姿勢を育む契機となりました。

(4) 探究・STEAM 講演会

令和7年9月2日には、1年次を対象として探究・STEAM 講演会を実施しました。

講師として、岡崎建設株式会社代表取締役 岡崎希裕氏を招聘し、「バレーボールでまちを元気に」と題した講演をいただきました。

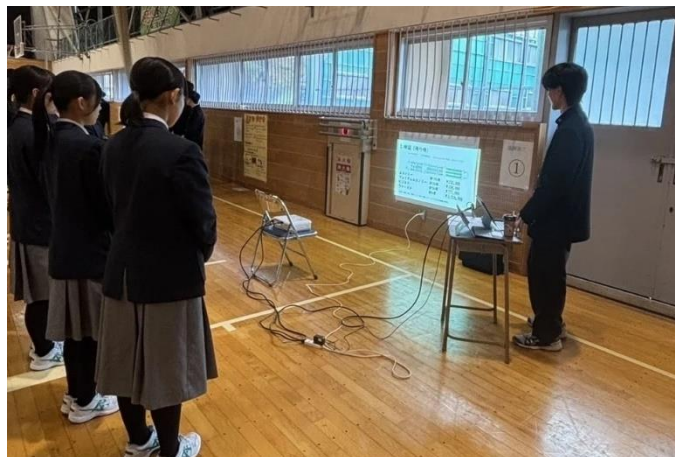
講演では、地域スポーツと地域活性化との関わりや、企業として地域社会に果たす役割について紹介いただき、生徒たちは地域創生や地域づくりについて理解を深めることができました。

加えて、地域の課題解決に向けて、多様な主体が連携しながら取り組むことの重要性について学び、自らの住む地域の将来について考えました。

(5) 他校との相互発表会による学びの深化

令和7年10月24日、軽米高等学校・葛巻高等学校合同発表会へ参加させていただきました。

他校生徒による探究活動の成果に触れることで、自らの研究内容を客観的に見つめ直す機会となるとともに、新たな視点や研究手法について学ぶことができました。特に、「地域づくり」や「地域創生」をテーマとした探究活動は、本校生徒にとっても大きな刺激となり、今後の研究の深化につながる有意義且つ貴重な機会となりました。



(6) Pre-Global Studies Program による国際的視野の育成

令和7年12月24日・25日には、1年次・2年生希望者を対象として「Pre-Global Studies Program」を実施しました。「Global Studies Program」は岩手県では本校が初めて導入した英語研修プログラムです。

英語圏出身のファシリテーターや留学生とのグループワークやディスカッションを通して、生徒たちは多様な価値観や文化的背景について理解を深めました。また、世界で起きている諸課題について英語で意見交換を行うことにより、グローバルマインドの醸成と表現力の向上を図ることができました。

異なる文化や価値観を持つ人々と協働する経験は、国際社会で活躍するために必要な資質・能力の育成にもつながっています。今後も本研修を継続して毎年実施していく予定です。

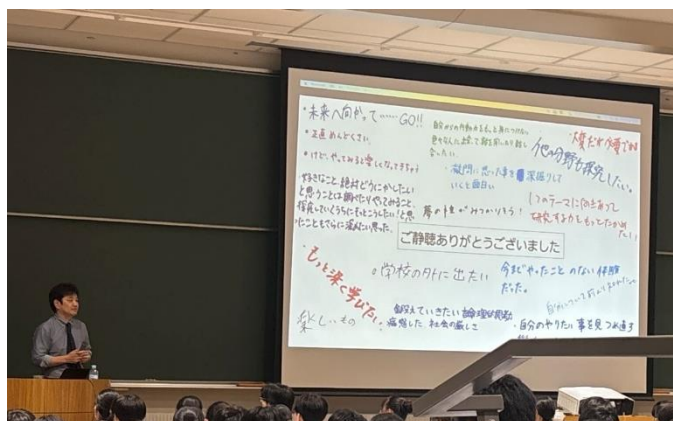


(7) 探究的な学び講演会

令和7年12月12日には、1年次を対象として探究的な学び講演会を開催しました。

講師には、西大和学園高等学校教務主任であり、元岩手県教員である梨子田喬氏を迎え、探究的な学びの意義や教科横断的な学習の重要性について講演をいただきました。梨子田氏の専門分野である中国史及び中国文学に関する研究内容も紹介いただき、複数の学問領域を関連付けながら考察することの重要性について理解を深めることができました。

生徒たちは、一つのテーマを多面的な視点から捉えることの大切さを学び、探究活動においても幅広い視野を持つことの重要性を認識しました。



(8) 論文作成講座

令和8年2月27日には、2年7組理数探究コースを対象として論文作成講座を実施しました。

講師として、岩手大学農学部の尾崎拓氏及び岩手大学理工学部の宇井幸一氏を招聘し、研究成果を論理的にまとめる方法や論文執筆における基本的な作法について指導いただきました。

講座では、研究の背景や目的、方法、結果、考察を適切に整理する方法について具体的に学ぶとともに、研究成果を客観的かつ分かりやすく表現することの重要性について理解を深めました。

課題研究の集大成として、論文作成能力を高めるとともに、大学進学後の研究活動につながる貴重な学習機会となりました。

(9) 年間を通じた探究的な学びの充実

本校では、年間を通じて多様な講演会や研修会を実施することにより、生徒一人ひとりの主体的な学びを支援してきました。

情報活用能力、データサイエンス、地域創生、グローバル教育、教科横断的な学習、論文作成など、多面的な視点から探究活動を支えることで、生徒たちは知識や技能のみならず、主体性や協働性、論理的思考力、表現力など、これからの社会で求められる資質・能力を着実に身に付けています。

今後も大学や研究機関、地域社会との連携を深めながら、探究的な学びのさらなる充実と深化を図り、ORPの理念の実現に向けた教育活動を推進します。

9 令和7年度 総合的な探究の時間アンケート結果

(1) 令和7年度 総合的な探究の時間振り返りアンケート

ア 実施日 1 年次・2 年生；2 月 19 日(木) 3 年生；12 月 9 日(火)

イ 実施対象 全校生徒

ウ 質問内容 次の設問 1～9 について【①そうである ②どちらかというそうである ③どちらかというそうではない ④そうでない】から 1 つ選んで番号で回答する。

設問 10 は自由記述にて回答する。

設問 1 自分の成長や向上のために有意義な取り組みだった

設問 2 科学的探究心が高まった

設問 3 論理的思考力が高まった

設問 4 発展的対話力が高まった

設問 5 進路の参考になった

設問 6 良い人間関係を築くきっかけになった

設問 7 教科の学習に対する意欲が高まった

設問 8 自分の研究内容、研究分野への興味関心がより高まった

設問 9 課題解決のためにデータ(統計や表・グラフ・図)を活用しながら探究する力が身についた

設問 10 取組の成果や次年度(進学先)での抱負など自由に記述してください

エ 調査結果

全校(765 名)

	①	②	③	④	肯定的な回答(①+②)		
					今年度	昨年度	前年比
設問 1	69.5%	27.4%	2.4%	0.8%	96.9%	96.2%	0.7%
設問 2	54.3%	36.0%	8.1%	1.6%	90.3%	89.1%	1.2%
設問 3	56.8%	37.0%	5.1%	1.0%	93.8%	95.4%	▲1.6%
設問 4	58.2%	36.0%	5.4%	0.4%	94.2%	95.6%	▲1.4%
設問 5	41.4%	37.3%	16.0%	5.4%	78.7%	73.0%	5.7%
設問 6	52.1%	37.6%	8.6%	1.7%	89.7%	91.2%	▲1.5%
設問 7	44.6%	38.7%	13.7%	2.9%	83.4%	82.4%	1.0%
設問 8	60.3%	32.2%	6.2%	1.3%	92.5%	93.0%	▲0.4%
設問 9	47.1%	37.6%	12.6%	2.7%	84.7%	89.1%	▲4.4%

1 年次(251 名)

	①	②	③	④	肯定的な回答(①+②)		
					今年度	昨年度	前年比
設問 1	77.3%	22.3%	0.4%	0.0%	99.6%	97.5%	2.1%
設問 2	61.4%	31.9%	6.4%	0.4%	93.2%	89.9%	3.4%
設問 3	59.0%	35.9%	5.2%	0.0%	94.8%	96.7%	▲1.9%
設問 4	62.9%	33.5%	3.6%	0.0%	96.4%	95.3%	1.1%
設問 5	47.4%	35.1%	15.5%	2.0%	82.5%	74.3%	8.2%
設問 6	63.3%	30.3%	5.6%	0.8%	93.6%	89.5%	4.1%
設問 7	55.4%	35.5%	8.4%	0.8%	90.8%	83.3%	7.5%
設問 8	66.9%	27.9%	4.8%	0.4%	94.8%	91.3%	3.5%
設問 9	48.2%	36.7%	13.5%	1.6%	84.9%	90.9%	▲6.1%

2 学年文系理系 (214 名)

	①	②	③	④	肯定的な回答 (①+②)		
					今年度	昨年度	前年比
設問 1	68.2%	27.6%	4.2%	0.0%	95.8%	96.7%	▲0.9%
設問 2	43.0%	44.4%	11.2%	1.4%	87.4%	85.6%	1.7%
設問 3	50.9%	43.5%	4.7%	0.9%	94.4%	94.3%	0.1%
設問 4	56.5%	38.8%	4.7%	0.0%	95.3%	95.7%	▲0.4%
設問 5	33.2%	40.2%	20.1%	6.5%	73.4%	74.2%	▲0.8%
設問 6	34.6%	47.7%	15.9%	1.9%	82.2%	91.4%	▲9.1%
設問 7	29.4%	45.3%	20.1%	5.1%	74.8%	76.6%	▲1.8%
設問 8	57.0%	35.5%	5.6%	1.9%	92.5%	93.8%	▲1.3%
設問 9	36.0%	39.7%	19.2%	5.1%	75.7%	84.2%	▲8.5%

2 学年理数探究コース (45 名)

	①	②	③	④	肯定的な回答 (①+②)		
					今年度	昨年度	前年比
設問 1	95.1%	4.9%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%
設問 2	82.9%	17.1%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%
設問 3	82.9%	17.1%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%
設問 4	70.7%	24.4%	4.9%	0.0%	95.1%	100.0%	▲4.9%
設問 5	39.0%	48.8%	4.9%	7.3%	87.8%	79.5%	8.3%
設問 6	75.6%	24.4%	0.0%	0.0%	100.0%	94.9%	5.1%
設問 7	56.1%	36.6%	7.3%	0.0%	92.7%	100.0%	▲7.3%
設問 8	70.7%	26.8%	2.4%	0.0%	97.6%	100.0%	▲2.4%
設問 9	85.4%	14.6%	0.0%	0.0%	100.0%	97.4%	2.6%

3 学年文系理系 (217 名)

	①	②	③	④	肯定的な回答 (①+②)		
					今年度	昨年度	前年比
設問 1	53.9%	39.6%	3.7%	2.8%	93.5%	91.1%	2.5%
設問 2	46.1%	40.6%	9.7%	3.7%	86.6%	87.8%	▲1.2%
設問 3	53.0%	36.9%	7.4%	2.8%	89.9%	92.7%	▲2.8%
設問 4	51.2%	38.2%	9.2%	1.4%	89.4%	94.3%	▲4.9%
設問 5	45.6%	31.3%	15.2%	7.8%	77.0%	64.2%	12.7%
設問 6	46.1%	42.4%	8.3%	3.2%	88.5%	92.7%	▲4.2%
設問 7	42.9%	37.3%	15.7%	4.1%	80.2%	82.1%	▲1.9%
設問 8	54.8%	33.6%	9.2%	2.3%	88.5%	92.7%	▲4.2%
設問 9	45.2%	42.9%	9.7%	2.3%	88.0%	90.2%	▲2.2%

3 学年理数探究コース (41 名)

	①	②	③	④	肯定的な回答 (①+②)		
					今年度	昨年度	前年比
設問 1	85.4%	14.6%	0.0%	0.0%	100.0%	97.1%	2.9%
設問 2	85.4%	12.2%	2.4%	0.0%	97.6%	97.1%	0.5%
設問 3	68.3%	31.7%	0.0%	0.0%	100.0%	97.1%	2.9%
設問 4	63.4%	36.6%	0.0%	0.0%	100.0%	97.1%	2.9%
設問 5	26.8%	56.1%	12.2%	4.9%	82.9%	79.4%	3.5%
設問 6	82.9%	17.1%	0.0%	0.0%	100.0%	94.1%	5.9%
設問 7	56.1%	34.1%	9.8%	0.0%	90.2%	91.2%	▲0.9%
設問 8	56.1%	39.0%	4.9%	0.0%	95.1%	94.1%	1.0%
設問 9	70.7%	26.8%	0.0%	2.4%	97.6%	91.2%	6.4%

オ 1 年次 (63 回生) 自由記述

No	回答
1	(後輩に)パワポで発表ではなく、印刷してやるからアニメーションは付かない!!! もっと早く初めの時点で教えてあげてください...
2	先生方のおっしゃった通り、スライド、タイトルに気をつけ、実験、調査では目標と結果をしっかりつなげたい。
3	テーマは日常生活でみんなが持つような小さな疑問にすると面白くなると感じた。また発表面については、緊張して聴いてくれる人のことまで考えられなかったため、人まで話す力が必要だと思った。
4	プレゼン資料を作るときには、図やグラフを用いて聞く人がより分かりやすくなるようにするべきであると考えた。調べたことをもとに論理的に考察していきたいと思った。
5	この発表内容が成功することで世界が喜ぶような、もっと実用的な発表をしたかったが、何の意味があるのかさえ分からずに実験してしまった。次は自分や社会の役に立つ地に足のついた内容の発表をしたい。
6	今回はネットで調べたことを中心に発表を行ったのであまり質の高い発表はできませんでした。次年度は独自の実験やアンケートなども使ってより質の高い発表にしたいと思います。
7	本当に興味がある物を見つけれるようにしたい
8	総合的な探求の時間で似た取り組みをしたい方とグループを組むことで、これまで関わったことのないような人と関係を築くことができた。私は探求テーマが曖昧なもので始めてしまったので、もっと明確化してから探求に取り組むべきだったと反省している。理数探求コースの発表をきいて、授業で習った内容をここまで発展させて講師の方と議論できのには本当にすごいことだなと思った。来年は、今年の探求と関連付けてより明確化、具体化したテーマを設定したい。
9	自分が大学で学びたい学問についてより関心が高まった。次年度では自分の興味関心のある分野で面白いと思って貰えるような内容、話し方で発表したいと思った。ポスターは思っていた以上に小さいので文章は最低限でグラフや写真は大きくし、口頭で丁寧に説明する必要があると感じた。内容が専門的な場合、淡々と進めては聞いている側が飽きるのので例えや語句の説明を加えるべきだと感じた。
10	探求にもっと力を入れて、自分に与えられた機会を逃さないようにする。
11	スライドを見てそれに関するはなしをアドリブでできるようになりたい
12	来年度は個人での発表なので、見通しを立てながら自分の興味関心に合うような探求をしたいです。
13	少し内容が薄かったのもっと追求すればよかったなと思いました。
14	自分の調査に対しての課題を見出し、修正したり自分で実験したりすることを頑張りたい。
15	タイトルをよく考えないでつけてしまったことが課題に残った。話を聞いていると探求の顔になる大事なものだからよく考えたい

16	発表原稿及び発表プレゼンテーションの作成に尽力することができたが、情報収集に対する行動が良くなかったかなと考えた。例としては、実際に病院に行って医療従事者から話を聞いたり図書館で書籍による情報収集といったことをしたい。また自分の独自の見解をもとに資料を探して添付してしまったので、これからは資料を読み取りそこから読み取れることをしっかりと明記し、自分の考えが当たり前かのように話さないようにしたい。
17	興味があることについて探求できたので良かったです。
18	次年度は自分の興味関心をとことん突き詰めたい
19	もっと深くまで調べて質の高いものにしたい
20	自分の知りたい分野での探究に加えて、他者の興味を得られるようなテーマでの探究ができるようになりたいです。
21	もう少し実験の仕方やアンケートの仕方も工夫できれば良かったなと思った。来年は1人での発表になるので少しずつ興味のあることについて考えておきたいです。
22	自分のやりたいことをやるべき。よって例え1年でもやりたい探究があるなら1人でもやるべき
23	ちゃんとした計画を立て、数値やグラフを使い発表できるようにしたい。
24	探究のしやすさではなく自分の好きなことをやった方が圧倒的に楽しい活動になると思った。楽しかったです。
25	今回の取り組みを通して、自分の発表が苦手の意識を少し無くすことが出来た。また、全3回発表があったことで、自分の発表の仕方がだんだん良くなってるのを実感することが出来てとても嬉しかったし、質疑応答については相手に分かりやすく回答できたかは分からないけど、自分の考えを話しながらかつて伝えることができたため良かった。二年次では原稿がなくても発表が進められるくらい自分の探究を深め、自分に足りない力を身につけることができる活動にしていきたい。
26	もう少しデータを用いること、主観と客観をバランスよく使って、発表原稿を作れば、良かった。
27	答えられた質問にちゃんと答える即興力や、文章をわかりやすく伝える力を付けることができた。もっと内容を深掘りして、知識も思考力も付けられたらよかった。
28	2年からの個人探究では自分の興味関心をとことん突き詰めたいとおもった
29	自分の興味があることをたくさん調べて探究としてまとめていきたい。先を見通した探究を進めていかないと十分には調べられないとわかったのでペース配分を頑張りたい。内容も大事だが、タイトルなど細かいところがしっかりしているとより探究が深まるので次は気をつけたい。
30	説明に一貫性をもち、矛盾がないようにすること。

31	もっと人との関係を大切にしたい
32	グラフなど具体的な数値を出して発表できるようにしたい。タイトルも工夫したいと思った。聞き手にわかりやすいように伝えることを意識してやりたいと思った。
33	初めて実際に実験のようなものを行い、良い経験になった。これからの探求や科学部の活動に活かしていきたい。
34	来年は自分の好きなものや興味のあるものを深掘りしたいと思いました。今回の反省は「睡眠の質」の定義が足りない、データの数値をもっと細かくかつ確実にするです。これらを来年に繋げて、より良い探求にしたい。
35	台本を読むだけになってしまったから2年次では台本から目を離して発表したい。題名と考察が最終的に噛み合っていないものになってしまったから矛盾しないようにしたい
36	もっと聞いている人がわかりやすいタイトルや内容で探求した方がいいと思った。
37	自分の好きなことについて沢山調べて、学びたいです
38	個人探求頑張ります
39	今年度は探求の時にとりかかるのが遅くて後悔したし、直前になってからばたばたと資料を仕上げたのでもっと余裕を持って取り組みたい！そして、資料の文字が小さすぎて遠くから何も見えなかったみたいなので、文字の数を考えたい！自分の進路につながるようにドーピングについて探求したいです！
40	今まであまり取り組んでこなかった内容について色々な人の話を聞いてたくさんの知識を身につけることができた。自分には何ができるのかなどさまざまな考えを広げ、これからの生活に繋げていこうとすることができた。次はより説得力のある発表にできるように資料集めやスライドの工夫をしていきたい。
41	今回の取り組みのなかで準備することの大切さを再認識しました。準備できたつもりにならずにいろいろなことを想定して準備することが今回の探求では足りなかったなと思いました。また2年生の探求を聞いて来年自分がやりたいものも少し決めることができたので今回の反省をいかして調べたいです。
42	みんなの発表を聞いて探究心が深められたと思う。タイトルを決めるのに気をつけてほしい。タイトルですべてが決まります。
43	なかなかテーマが決まらずグループで出た少し面白そうなテーマについて短期間で突き進むような感じになってしまったので自分と向き合い興味関心に沿って進めるべきであった。グループでの対話や協力といった面は大変良かった
44	実験をたくさんしましょう
45	想定していなかった質問がされたが、柔軟に対応できた。緊張もしたけれど、いい刺激になった。ポスターの文字が小さくて見えないことが多かったので、ポスターのデザインも工夫を凝らしておけば良かったなと思った。

46	人が興味をもちやすい内容の探究をした。単純な好奇心から生まれたものだったが、実験してデータをだしてグラフを作って分析して真剣に調査した。3回の発表を通して、対話力が格段に向上した。次は社会に貢献できるようなそんな探究の内容にしたい。後輩には1年のうちはとにかく興味関心を持ったものを調べて2年次のための経験値にしてほしい。
47	自分の興味関心のある経済について探究して、盛岡についてや経済についての理解を深められた。来年度も自分の興味関心のあるテーマについて熱心に探究したい。
48	自分の興味があることについて探究し深掘ることは、楽しくとても有意義なものだと思った。またそれを共有して、相手に伝えることができるのはとても貴重な機会だった。これから探究をするにあたって、今回の発表会で学んだことを活かしていきたい。また発表で相手の興味を引き、楽しく伝わるように努力したいと思った。
49	自分の興味関心に合った探究を自分の手で結論までもってくるのはすごく楽しかった。けど、データを論理的に見るという点で、独自の判断が多くて無理があるようなことも多かったなと思った。なので次は、データを無作為に抽出することに気をつけながらデータからわかることを正しく読みといていきたいなと思いました。
50	客観的な証拠を出す。流れをまとめる。題名と目的をハッキリさせる。実験や自分の目で見るなど根拠のあるものを提示する。
51	次はグラフを使ってスライドにこだわりを持ってエビデンスのある発表を心がけたいと思った。発表原稿はまとまりのあるわかりやすい文章にしたいと思った。
52	来年は問いかけを行ってみたい。根拠をはっきりさせて発表したい。タイトルをしっかり考え、一目見て内容が分かるようにつけたい。
53	仮説の内容がとても重要だと思いました。もっとデータを用いたり明確な結果を使用した方が説得力があるなとも思いました。進学先にあった探求のほうがやりがいを感じるかもしれません。
54	来年度はグラフをたくさん用いて、根拠ある発表を心がけたい
55	次の学年でも楽しいことを調べたいと思った。もっとデータなどを駆使してカッコいい発表をしたいと思った
56	複数人だったので、自分の興味のある追求することが出来なかったが、深く探究を進め、発信できた。
57	来年度の個人での探求の方が自由度が高そうなので、今のうちから世の中の物事に批判的思考力を持って生活し、疑問に思うようにしたいです。発表会の形式についてですが、片方のグループが終わって聴者が移動を開始すると、まだ終わっていないもう片方のグループが困っていたので改善して欲しいです。
58	興味を惹くものがとても重要だと思った。
59	熊との共存について、どのような解決策があるのか学びが深まった。
60	一人で全部やりぬく

61	探究タイトルを工夫する仮定をさらに深掘りする獲得したデータの関係性を明確にする
62	先輩方の発表を聞いて次年度の探究について考えることができましたしかし質問された時に上手く答えられず戸惑ってしまったので先輩方を見習いたいと思いました
63	AIを上手く活用したり、自分たちの探究したいことをしっかり見つけて取り組めたが、もっと自分たちの考察など語ったり、データを活用できたら良かったと思った。
64	自分たちのグループでは音楽について探究し、音楽の楽しみ方をより深めることができた。他の人の発表では、部活の先輩を中心に、自分の興味以外のテーマにも触れたことで、さらに視野が広がり、来年の探究活動にも繋げられそうだと思います。一方で、積極的な質疑応答が出来なかったのが、来年は自ら質問する姿勢や、質問に対する反論想定を計画的に出来るように進めたいです。
65	来た質問に答えられるようにあらかじめ情報を広く取り入れることと、タイトル作りを工夫することを次は頑張りたい。
66	積極的に探求に取り組むことができた。来年度も頑張りたい
67	もっと時間を有効的に使わないと調べたいことを知るべきれない
68	今回の探究は目的や意図を明確に持ってそれに向かうまで深く考え続けることができた。来年も自分の関心あることに対して深く追求していきたい。
69	原稿通りすぎだったのでもっとアドリブ力を鍛えたい、原稿を見なくても発表できるようにになりたい
70	自分が興味あるものを深掘りしてデータなどを利用しさらに説得力があるものにしたい。
71	今回の探究では、チームメンバーと協力して疑問に思ったことを積極的に調べてまとめられた。しかし、質疑応答でうまく答えることができなかったため、何を聞かれても答えられるように理解を深める必要があると思った。
72	今回の探求では主体的に行動することができた。次年度はリサーチに力を入れて探求したい。今回の反省点としては実験の被験者が少なかった点。得られたデータを平均値で発表した点。できる限り多くの被験者を集めて根拠の説得力を増やしたほうが良い
73	自分のやりたいことをやった方がいいと思ったやるからにはちゃんと取り組んだ方がいいと思った
74	問い→答え というサイクルを一度で終わらせるのではなく、答えを求めたあとも視点や、条件を変えて別の問いを求め続けていきたい。
75	自分が疑問に思うことや気になることを探求してみて、解決することができたし、今後につなげることができると思うので良かったです。また、2年生の発表を聞いて、来年自分もこんなふうに自分の気になることを探求したいと思いました。

76	今回の探求では、自分が興味のあることについて探求できたので良かったです。来年も自分の興味のあることに、取り組んでいきたいです。
77	主観的な考え、調べかた、結果になってしまったので客観的な調査の仕方や結果に根拠をもたせられるようにしたい。
78	今年度の探究では、発表するにあたって適切な資料やデータを提示することができなかったように感じました。来年度の探究では、発表のことまで考え、適切かつ分かりやすい資料を出せるようにしたいと思いました。
79	前半に行った探求と後半に行った探求でメンバーもテーマも変わってしまい、前半では現地調査のみ、後半では調べ学習のみというように少しキリの悪いものになってしまいました。しかし、後半の方では調べ学習だけでなくチーム内での対話も大切にしてできたので良かったです。来年は探求が2コマなので自分の将来に繋がるようなテーマを得意な実地調査やアンケート、企画実施など行動に移すことを大切に行って行きたいです。
80	自分では理解できるけど聞いている人はどうなのかをチームの人と確認しながらこの言い方だと相手に伝わりづらいかもしれないなどを考えながらできた
81	本当に自分が調べたいことを調べる
82	固定概念に囚われず様々な視点から自分の興味がある内容を探求することが大切だとわかった。
83	理数探究コースの先輩の発表を聞きやはり化学、物理系の探究を来年やりたいなと思ったまた、対照実験の大切さを理解したので今後より実験をたくさん行い、探究をしたい
84	自分が探究したかったことを仲間と協力して調査し、納得のいく結論を出すことができた。世界と日本の両方を調査したが、視点を絞ればより問いを深めることができたのではないかと改善点がアドバイスによって発見された。先輩方や同学年の発表を聴き、それぞれの興味・関心は異なっており、さまざまな考えに触れることができ、貴重な経験になったと同時に意義のある時間となった。来年は積極的に質問や感想を伝え、同じ立場として、探究の意識を高めていきたい。
85	肩苦しい発表よりもおもしろい探求の方がいいとおもう
86	次探求する時は、ただ単に調べたことを述べるのではなく、データに基づいて自分の考えを述べ、結果からわかったことから問いを見出し、さらにその問いに対することを調査するということを繰り返してよりテーマを深く掘り下げていきたい。
87	2年生の先輩方の発表を見て、来年どのように調査して発表すればよいのかがわかった。理探の発表も参考にできればと思う。
88	探究する事によって新しいことを知ることができたり、理解を深めたりすることができた。そして、探究をきくことで新たな発見がありました。次年度は個人での探究なので積極的に取り組んでいきたい。
89	自分たちも発表にむけていっぱい調べて準備してたつもりだったと質疑応答などで答えに詰まることも沢山あってもっと問いを突き詰めていかなければなと思った。反対に2年生の発表は聞いていてわくわくしてすごいと思うものが多かったし、来年の探求テーマ決めの参考にすごくなった。
90	探求への取り組みの成果は「なぜ、そうなるのか?」と考える力がついたことです。そして、深掘りすることができました。次年度には、複数の資料を比較したり、計画的に進めようと思いました。

91	来年はもっと自分のやりたいことを探求できるので、進んで自分の探求を深めていきたいです。
92	2年生と一緒に開催することで、次年度の参考になった。質疑応答をもっと積極的にできるといいなと思った。最後の講評を聞いて、確かにデータを用いた発表は、午前中は少なかったと感じたので挑戦してみるのもいいなと思った。次年度は更に深い探究ができるように、日々テーマを探していきたいと思った。
93	人間では無い生物の心理的な部分に触れたため、数値化して示すということが観点になかったから次はやってみたいと思った。また、一人でやらないからこそその利益を出すことができなかったのも反省点であると思った。
94	もっと練習してから発表すればよかった。
95	後輩には、AIの使い方について気をつけてほしい。自分の脳で極力考えることを大事にして欲しい。グループの目的と自分の目的が不一致でも自分の目的をしっかり持って糧とフルことを大事にしたい。自分の考えを言語化する能力をもっと身につけたい。
96	実際にデータをとって探究するのが大切だと思いました
97	今回の探究で調査の手順やどのようなことに気をつけて情報を集めればいいのか分かった。pdcaサイクルをより重視して調査したいと思った。
98	今回は自分の考えに基づいて仲間と探究し、資料にまとめて本番には、発表資料だけで発表することができた。取り組みの中で、実証などの行動ができなかったので次年度は、そこにも気をつけて取り組んでいきたい。また、大学の先生がおっしゃってたように、タイトルをもっと具体的にしたりするなどして大切にすることをしていきたいと思いました。
99	パワーポイントでの資料作成の経験を身につけることでより分かりやすく、シンプルに作る方法を身につけられました。しかし、当日に質問の回答などを考えていたため、真偽が怪しい回答をしてしまうことが合ったので事前に質問内容を予想しておくべきだったと思いました。
100	タイトルをもう少し詳しくすること、数値を使う時はグラフをつかうこと
101	来年からは1人で発表だからどうやったら聞いている人に興味を持ってもらえるかを考えて資料作成と発表を頑張りたい。
102	もう少し探求が深められるテーマにすればよかった
103	1年に一度しかない探究発表会に出られなかったのがとても悔しかった。発表までの取り組みの成果としては、メンバーと協力して構成を練る・調査する・パワポや原稿を作成するなど広く力をつけることができたが、あまり深くまでは掘れなかったような気がする。2年次は探究2コマを選択したので、またグループ活動を頑張りたい。今のところ自分の中に1年間深く掘り下げられそうな探求テーマがなく、つまづいているので、他の人と探求テーマを共有して自分の知見を広げられるようなテーマを見つけ、1年間頑張りたい。
104	データをまとめ、それを分析したり課題に繋げる力がついた
105	機械音痴すぎてパワポを上手に扱えなかったから、もっとパワポに慣れたい

106	今回は学級閉鎖で出られなかったので体調管理はだいじだと思ふ仲間との協力する姿勢がくれた
107	自分たちの班はインタビュー以外に資料などを読んで調べたけれど、若干主観的な感想が多めで良い探究とは言えない部分もあった。ので、後輩の方々には客観的な視点を得るためにもアンケート調査を行うなどした方が良いと感じた
108	学級閉鎖で発表することは出来なかったが、しっかりと構成を考え、議題に対して積極的に取り組むことができた。
109	自分も先生も気になることを調べて、みになったのでよかった。しかしもっと原因の追求ができたと思ったので探求していきたい
110	チーム一人一人が自分の分担された役割を一生懸命行い、授業時間だけでは終わらなかったが、各自家で進めることで原稿までしっかり作り終えることができた。後輩にはチームのメンバーが何人いても、人任せにせず役割を分担して、自分の役割を最後まで責任をもって行うということを気をつけて欲しいと思う。学級閉鎖により、メンバー1人が発表する形になってしまったが、ほかのメンバーも質問の答えを考えたり、アドバイスをし合いながら最善を尽くすことができたと思う。課題について調べる力、分かりやすくまとめる力、対話力、責任感など様々な力が身についたと思う。
111	来年度も探求を続けていくのでインターネットで調べれば出てくる探求をするより、自分たちで実験をすることで探求をより深く取り組めると思います。
112	ただおしゃべりするだけの時間になってしまうことがあったので、計画的に取り組むことに気をつけたい。
113	主体的に調べる力、それを利用した説明などつながりを意識して調べることができた
114	チームのみんなと役割分担をし、協力する力がついた。来年は個人での探究になるから周りに頼らずに自分一人で頑張れるようにする。
115	ORP発表会の準備を頑張ることはできたが、学級閉鎖で発表会に参加することはできなかった。来年度は発表会に参加して、プレゼンテーションをする力を身に付けたい。
116	正しい情報を集めてパワポを作れたが、仲間ともっと話し合っって協調性を持って取り組んでいきたい。
117	もっと良い探究活動に出来たらいいなと思います
118	課題を探求する力が身についた。分からないことは分かるまで調べて、知識をつけることができた。
119	次はもっと簡潔にまとめたい
120	正解探しにしないということに気を付けてほしい。一つの正解を当てる活動ではなく、「問いを立て、考えを更新し続けるプロセス」を重視すると思う。

121	もっと協力したかった。
122	今回の探究で論理に基づいて結果を見据えて実験を行うといったことに初めて取り組み、失敗することもあったが、結果としてORPのポスターを作成することができた。次年度も今回培った力を発揮して、より実用的な探求ができれば良いなと思った。
123	もっと面白いテーマにすればよかった
124	体調管理をしっかりする時間がない中でも準備を計画的にする
125	みはるんだいすき
126	探究活動に積極的に取り組む姿勢を学びました。文章を自分で考える事をもっと出来るようになりたいです。
127	思考力が身についた、次は作り資料作りを自分で出来るようにパワポの使い方を学びたい
128	チームの人と協力して、自分の興味のある分野の探求を深められた。
129	リーダーについていくじゃなく僕が引っ張りたい
130	もう少し時間に余裕を持って行動する。グループのみんなと協力して、より良い探究活動ができた。
131	根拠を持って意見を書くことを意識する
132	もっと内容を考えられるようになりたい
133	来年度はわかりやすいタイトルにすることや仮説と考察を結びつけることを気をつけてやりたいと思った。
134	もう少し時間をかけた探究をしたい。自分の気になることを持っておくべきだった。
135	来年は1人で発表できて、自由度が高まるので有意義な探求をしていきたい。
136	二年生の探究活動を見たり、他の人の意見を聞いたりして、自分には何が足りないのか、何が必要なのかがわかったので、来年に生かしていきたい
137	探究のテーマ決めの大切さを改めて感じた。興味を持つための日々の学習であり、探究を深めるために日々の授業が繋がっていると感じた
138	データの可視化のためにもっとグラフや表を活用すべきだと感じた。得られた結果から、まとめたり考察したりする力が身についたと思う。他の人の探究がかなり論理的でデータに基づいたものが多くて、勉強になった。
139	データの使い方をあまりうまくできなかった複数のデータを使うことができなかった
140	自分たちが探究した話題以外で、様々なものを見てみて興味が出たものも結構あったので問いや疑問の幅が広がったと感じた次年度の探究にも意欲が出た

141	もっと直近のグラフを提示して自分の意見をより強調できるものにすればよかった
142	タイトルが単純すぎたと思った。
143	自分の探求内容に説得力を持たせるためにもっと実験をしようと思う。
144	次は、タイトルをもっとわかりやすく書きたいと思いました。
145	探究についてあまり積極的ではなかったが3年生の先輩の発表を聞いて探究活動に前向きになった。次年度はチームではなく1人なので頑張りたい。
146	発表内容のなかに相関関係などのグラフを使えばよかったかなと思った
147	実際に自分たちで実験してみた結果を発表内容にふくめていきたい
148	課題作成を頑張りたい
149	調査・分析がほとんど調べ学習になってしまったから、実験などをして根拠のある結果を出せるようにしたい。
150	チームでそれぞれ観点別に調査したのですが、みんなデータを表などにして表しておらず文章での説明だったので、もっと見やすいスライドにするためにグラフや表を使えばよかった
151	グラフなどを活用して変化の様子や推移を示すこと
152	資料をまとめるだけでなく自分の体験などを踏まえて根拠付けをして探究したいと思った。
153	自分のやるが多かったので、もっとチームの人と協力して平等に役割分担すればよかった。
154	スライドのまとめ方、話し合いが足りないと感じた
155	テーマを考えたり、構成を考えたりチームと連携をとるには時間が少ないなと思った
156	タイトルをスライドの内容やまとめに沿ったものにすればよかった。
157	もっとグラフと結果を結びつけられたら良いとおもった。また、質疑応答に対して正確に答えることができなかったから、もっと深掘りして答えられるようにしたい。
158	この学習でAIについて調べるまでは、AIとはどんなものなのかよくわからなかったが、要約文の違いを通じてなんとなくわかった。
159	今回は調べるだけになってしまったから、次回は論理的に考えて探究したい。
160	先輩方の発表が、自分の体を使って実験していたり、グラフを使用したりしていて分かりやすかったから、来年自分がやる時に参考にしたい。

161	来年から文系の探求をするので2年生の発表や理探クラスの発表は良い刺激となった。ただ、探求に当てる時間をあまり取れなかったので次年度は余裕を持って深く調べていきたい。また、質問に対する答えが素早く出てこなかったのもので理解を深めて自信を持って答えられるようにしたい。自分からの質問もできるようにしたい。
162	2年生の発表を聞いて、来年は1人でやるという自覚が湧いてくるとともに、何をやるかという意欲も湧いたきたので、来年が楽しみです。
163	グラフや図など視覚を刺激する具体的なものがあればいいなと思ったので活用していきたい
164	来年度は今回多く指摘されていたタイトルやスライドごとの題名がより内容が伝わるものになるよう気を配っていきたいです。
165	今回の探求よりもより深く活動していきたい
166	ただ調べたことだけを発表しただけになってしまったもっと仮説を立て、問いを深めたかった。
167	来年度はサイクルを繰り返しながら、しっかり探究活動をしたい
168	自分の興味関心について詳しく調べたことで、より知識が深まりもっと調べたいと思った
169	たくさんの情報を1度に伝えると混乱するので、いちばん伝えたいことを短くまとめて強調するようにする。レシピなど具体的に活用して欲しいアイディアはQRコードを作成して詳しく伝えられるように工夫する。
170	今回の探求では、調査・分析の後にもっと自分達の問いを立てて深めるべきだったと思う。次年度では「～なほど～なのでは。」といった考察力や課題発見力を身につけて探求に臨みたい。
171	しっかり計画的に協力して探求できたので良かった。
172	データをいれて信ぴょう性を高めたい。来年度は緊張しないで発表できるようにしたい。
173	タイトルやデータを伝える工夫、グラフを入れ、発表の仕方を工夫するなどもっと興味をひくようなものにしたい
174	タイトルをもっと工夫できるようにしたい目的、データを結びつけたり課題見つける能力が重要だと感じた最初のテーマ選びの問いをもっと慎重に選ぶべきだと感じた
175	もっといろんな視点から調査したり、内容を詰めていけたらよかった。

176	スライドはできるだけわかりやすく。
177	よく調べてより深く探究に取り組みたいです根拠や考察の部分を深めればより良くなるかなと思いました
178	これからも自分の興味関心があることについて探究していきたい
179	エビデンスを示さないといけないとわかった。
180	最初の発表の時に観覧してくれた人から自分たちが気づけなかったところの指摘を受け、さらにテーマに対する関心が深まった。授業の時間をテーマ決めに多く割いてしまい、もっと時間を有効活用できたのではないかと思った。その後悔もあり、もっと深くまで考えより良い発表ができたのではと思うと悔しい。
181	今回の取り組みは、発表がとても早く終わる、タイトルと結論の結び付け方が曖昧だったことなど、正直不完全燃焼だったと思っています。だからこそこれからの探究活動では好奇心とコミュニケーションの重要性を学びました。なので、探究に対しての捉え方に限らず、主体性を根本的に鍛えていきたいです。
182	聞いている人達に楽しんでもらえた来年はもっと今回のテーマをふまえた探究をやってみたい
183	探究の目的が曖昧だったから来年はしっかり定めたい。 来年は自分の興味、関心をより深められる探究にしたい。
184	来年度は自分の興味のあるテーマを、インターネットだけでなくデータや論文なども活用して、根拠を明確にして探究仕様と思う。今回見させていただいた先輩方の探究内容や発表の仕方を参考に、自分だからこそできることをやりたいと意欲が高まった。大学の先生方の講評よりタイトルにも意識を向けて興味を持たせることを参考にしたいと思う。
185	次年度では、1人での発表になるので今回の経験で得た課題や成果を活かしたい。また、新たに自分なりの独創的な課題を見つけ、深めていきたい。
186	グラフなどを掲示して詳しく踏み込んだ内容に次はしていきたい
187	ただの調べ学習にするのではなく実験などを行うことでさらに説得力を増している探究にしたい将来の夢に関することをしたいもっと力をかければよかった
188	探究活動を通して、調べたことをもとに考察する力だけでなく、対話力や発信力などの人間も高められたのでよかった。しかし、大学の先生がたから予想外の質問をたくさんいただき、言葉に詰まってしまった場面があったので、もっと広く、詳しく調べておけば良かったと後悔した。そして、テーマに工夫がなかったり、探究の目的が明確になっていなかったりしたので、改善したい。また、他の人の発表を聞いて学んだことも、活かしていきたい。
189	学級閉鎖等で急遽1人での発表になったが、チームでの調査をしっかりと伝えることができた。スライドの工夫など、今回で分かったことを元に来年の探究活動も頑張りたい。
190	今日見たたくさんの発表を生かして、来年は誰が聞いても面白いと思う発表ができるようにしたい。

191	抽象的なテーマを掘り下げて、感じたことを言語化する力がついた。来年度は今年と全く違ったテーマでやるつもりなのでデータ分析に力を入れて、社会に繋げられる探求をしていきたい。自分のためでもあり、人のためにもなる探求を目指したい。後輩のみなさんには発表のときにストーリー性があって話の繋がりがある聞いてておもしろい発表を目指して頑張ってほしいです！
192	タイトルと内容が少し相違している部分があったのでそこを改善したい。相手への伝わりやすさを考えて原稿を作っていきたい。
193	来年は自分の発表の中で矛盾した点や疑問点がないような発表にしたい。大学の教授の話を参考にもしたい。
194	次年度はもっと自分から深く調べて、何度も何度も繰り返し考察と実験を繰り返したい。
195	もっとちゃんと証拠をもって探求すれば良かった
196	人前での話す力が高まったと思う。
197	1度初めの探究のテーマに戻ってズレていないかを確認すればよかった
198	大学の教授がおっしゃっていた通り、課題発見力が重要であると感じた。自分にはまだ不足していると感じたため、2年次の総探では課題の発見に力を入れたい
199	目的を明確にし、より深く内容を探究していきたい。
200	自分達でテーマや問いを設定し、仮説を立て、結論を出し、それを発表することが出来た。また、他の生徒の発表を聞き、多くの学びを得た。また、2年生の発表や質問・意見から学べるのがとても多く、次の探究活動に活かしたいと思った。データを使用したり自分達で調べたり考える力がつく良い機会だったとおもう
201	今回、発表をしてみて、人前で自信を持って話す力や、臨機応変に返答する力がついたと思う。しかし、質問があまりもらえず調べ学習で終わってしまっていたことを知らされた。次の個人探究はもっと深みのある問いをたてて挑みたい。
202	自分の興味のあることを楽しく探求した
203	今回3回発表できたと思うのですが3回とも同じ時間に発表する人がいて見に行きたくても行けない人がいたためそのような発表順番を来年は考えていただけると嬉しい限りです。来年は個人発表になるので自分の趣味や好きなことにフォーカスしていい発表にしたいです。
204	タイトルの付け方や目的が最後まで一貫されているかなど、講師の先生方がおっしゃっていたことを特に重視してスライドを作れるようにしたい。テーマ決めの段階で見通しがもっとできるようにしたい
205	自分たちの内容を多角的な視点からもっと吟味すればよかったとおもった。先輩方の発表がおもしろく、とてもためになったので、来年は先輩方のような発表をしたいとおもった。

206	前提を確認がないままどうせあってるで進めないようにする。調べるだけではまとめ作業となるため問いに合った検証実験を行うようにする。
207	質問に答えるための知識や自分自身の考えが足りなかったと感じた。また、今回はインターネットで調べて調査するだけだったので来年はアンケートやちょっとした研究など実践的な探求をしたい。
208	新しい法則を見つけられたがもっと、広げていきたい
209	もっと自分の意見を言って資料を作ったり、観覧者が楽しめるような発表を作っていきたいと思った。
210	検証で、自分たちの感覚に頼った結果ではなく、機械や一般的な定義で数値化しようと思った。
211	数値を使ったが、抽象的になってしまったので具体的な数値を示して発表したいです。
212	調べ学習だけでなく自分たちで実験を行う
213	短時間でももっと調べたり考えたりしたらよりよい探求になったと思う。
214	好きなことをテーマにした方が楽しく探求できると2年生の探求を見て思った。
215	アンケートをとることで満足してしまい、そこからの課題発見、改善まで進めることができなかった。次の探求では、先行研究などのリサーチを徹底し、有意義な探求にしたい。
216	質問にもすぐ答えれるようにしたい。
217	聞き手の興味を惹くような話し方、スライド、順番を工夫したい
218	次はもっとしっかり調べてしっかりまとめる
219	粘り強く結果を探す
220	自分の探求したテーマについてより深く調べたいと思うようになった。自分のテーマ以外の発表を見て、自分も刺激を受け、興味を持った。失敗もしっかり分析して、確実によい結果が出るように微調整するのが大切だと思った。
221	がんばりたい
222	今回の探究活動を通して、普段疑問に思いながらも深く考えてこなかった問いを自分たちの力で調べ、まとめることができて、今後の生活に役立つ発見が多くあった。
223	リラックスして話せるように頑張りたい。来年は2年生に相応しい発表をしたい。
224	原稿ばかり見てしまったところ
225	質問への対応力に欠けるところがあった。先輩の発表を観て、発表中の話し方、質問への受け答えに流石だなと思った。たくさんの質問をもらって、後から「こう答えればよかった」と後悔したし、自分の知識の中でも、もっと良い答えができていたと思う。次に活かしたい。

226	さまざまな視点から考えることが大切だと感じた。身近なものから関心を持ち、深掘りすると、聞いている側も話してる側も面白いのかなとも思った。
227	もっと詳しい事例をあげればよかった。スムーズに紙を見ずに言えるようになりたい。
228	先輩の発表がとてもためになった。
229	もう少し下調べをしてから資料を作る
230	もっと実験をして改善点をみつけたすこと
231	質問に対してすぐに答えることができずに時間がかかってしまった。どんな質問が来るか事前に考えておくべきだと思った。
232	探求する上で細分化ができるように頑張りたい。
233	他の情報との結びつけによる結果の習得を来年度の総合探求で意識していきたい。
234	もっと質問をできればよかった
235	自分の興味のある分野をしっかりと探求し、より聞いてても楽しいものにしたい
236	次年度ではさらに多くのニーズに合わせてもっとたくさんの種類のグミを作り出せるようにしたいです。
237	理数探究コースの発表から実験方法の検証が大切になると思いました。また、データの扱い方や実験の計算の公式など普段の授業の知識も重要だとわかりました。

カ 2 学年 (63 回生) 自由記述

No	回答
1	様々な視点から考えることの必要性を感じた。いろいろな文献を通して自分なりに図にまとめたり、グラフにまとめたりすることで分かりやすい発表や理解につながった。発表を聞いていると、テーマと内容に若干のずれがあったり、発表に矛盾があったりしたので、テーマからぶれない探究を心がけることが大切だと感じた。
2	テーマを途中で変えたのはよいが、変えたあとでも研究に十分な時間をかけられるように計画を立てるべきだったと感じた。
3	質疑応答を経て様々なアイデアを得たことにより、冷たい毛布の実現可能性がより高まったと思う。
4	研究に基づいて考えることはできたが、データなど可視化された情報に基づいていけばもっとよかったと思う。また、テーマも前期から後期に変わるとき再考する必要があったように思う。
5	時間の関係で発表の中で省略したところがあったため発表する量と時間配分に気をつけて来年頑張りたい。
6	興味があることを調べられたので良かった。
7	ORDを通して進取の姿勢を身につけることができた。単純に1つずつ問いを立てて答えを見つけての繰り返しじゃなく、そこから更に発展させて関連性のある問いをまた見つけていけるようにしたい。
8	グラフや統計をもっと意識して工夫したパワポを作ったらもっと発表しやすかったと思った。また、講評を聞いて、もっとタイトルと凝ることが大切だとわかった。
9	文系的なテーマで、調べたデータからわかることなどは取り入れたが、結局は主観的な考えが結論になってしまった。どう結論づけるべきか難しいと感じた。
10	自分で調べて考えたことを、そこで終わるのではなく、発信する力がついた。
11	来年はもっと一つ一つの問いを深く探究していきたい。
12	国際試合から各国の諸課題である「平和」について事例を挙げながら言語化することが出来たが、まとめ方に説得力があまりないと思っていて一般的なまとめになってしまったので独自性を大事にしたい。
13	問いに対して自分なりの考えを作る力がついた。もっとたくさんのデータを使ってまとめたい。
14	自分が探究したテーマについて知れるだけでなく、考え抜く力や語る力なども身につけられたと思う。後輩には、ただの調べ学習にならないようなテーマを立てて、総探でしか出来ないことを突き詰めてほしい。
15	長めにデータ収集して納得いく結果が得られたので、説得力を増すというものもあるが、納得感や満足感を得るためにもデータをしっかり取るというのは大切にしてほしいと思った。

16	質問を予想して備えておく力がついた。探究に使える時間は少ないと思うが、深く調べておいて損はない。
17	体験記のような探求だったから、もっと問いと仮説を立てて学術的に探求できたらレベルが上がったと思う。立派な結論を出すよりたくさんアクションを起こして実践することが大事。
18	これから大学などで研究などをする際は、自分の探求テーマと実験のミスマッチが無いことやデータを扱う際に自分勝手な解釈が混じっていないかを注意しながら研究を進めるようにしたい。
19	探究を通じて、自分の伝えたいことを他者に理解してもらうためには何が必要か考える力がついた。反省としては目的と調査・分析に関連性をもって探究できなかった点
20	限られた時間の中で自分の伝えたいことを言葉にしたことで、臨機応変に話を分かりやすく進める力が成長したと思う。しかし、もっとみんなが興味を持ち、楽しめるような探求内容に出来ればよかったと思う。
21	吟味をもっとすればよかった
22	自分が探究したことをどう短く、わかり易く、正確に伝えるか、ということを意識して臨むことができた。「自由すぎる探究EXP0」に別の探求テーマで出品しようと考えている。その際、仮説と検証に矛盾がないか、タイトルはわかりやすいか、などのアドバイスを活かしてスライドを作成したい。
23	情報やデータを収集し、それを元に考察する力が身に付いた。今後は情報収集だけでなく実験的な探求に取り組んでみたい。
24	もっと実験を行えば説得力のある発表ができたのではないかと考えた。来年はグラフを適宜使用し、分かりやすいスライドを作成したい。
25	ORDに参加出来なかったので自分で参考文献や調査をするなど工夫が必要だった。自分の感覚に頼らず客観的な意見を使用することを心がけて欲しい。
26	様々な視点から考える力と違う分野を結びつけて考える力が身についた。自分の探究をより深められるような大学探しをしたい。
27	もっと詳しく探究するべきだった。一個のタイで終わらないで、結果と考察の後にまた問いを作るのをもっとやってればより有意義なものになっていたと思う。
28	探究内容をまとめる際には、客観的事実に限らず主観的な意見や考えも適度に取り入れていくと良い
29	今回の総合探究を通して、昨年度できなかったインターネット以外での調査をすることができて、とても良かったと感じています。しかし、具体的な数値を活用していないという点がまだ課題なので、次年度ではそこを改善したいです。
30	しっかりとした問いを立てることが重要だと分かった。

31	店頭調査の中で、必要な項目などは網羅できたが、自分だけの結果になってしまい、もっと人数を増やして、正確に調べるべきだった。今後、人間の感情に大きく関わる部分を調べる人（かわいいと感じるものは何か？映画に共感して泣くのはなんで？笑い声に釣られるのは？とか）は、検証や実験をする際、調査する人数を多めに想定しておくべきだと思う。
32	実験の数値や結果の扱い方が雑だったところがあったのでそこを直したい。私は人前で話すのがすごく苦手だったのですが、今回の活動を通して人前と話すことにあまり抵抗がなくなった。これからもこの力を活かしていきたい。
33	自分のやっているスポーツに直接繋がる探究テーマにして良かった
34	もう少し面白い探求ができたのではないかなと思いましたが、色々な人に興味を持って貰えたので満足です。
35	頂いたアドバイスを踏まえて、データの有効的な活用をしながら探求活動をしていきたいです。
36	もっと探究内容の題名を適切なものにするべきだった。他の人の発表から、もっと自分の好きなことを深める探究をしたらより根拠を持って探究について結論付けられたらと思う。
37	今回の探求ではインターネットで調べるだけでなく、実際の企画や人から聞いたことに基づいて進めることができ、探求の方向性も見直しながらも自分なりにより良いものにできたと思う。データについてあまりしっかり調べたり、アンケート等を取れなかったのもそこを活用できるようにしたい。また個性のある探求にするために自分の視点で物事を見れるようにしたい。
38	去年のそれぞれ感想を書いて渡すというのが復活するといいなと思った
39	テーマの分かりやすさや個性と一般性のバランスが大事という事が分かった
40	探究活動を通して、大きなテーマを考えるために赤塚の小さな問いに分解することが重要だと分かった。これは、探究だけの話ではないと思うので、教科学習にも活かしていきたい。
41	調査分析の中で新たな問いを見つけて、それを深掘りする力が身についた。発表原稿に頼るのではなく、事前に話すことを覚えておいて、スライドだけを見て発表できるようにすればよかったと思った。
42	今回の取り組みで、論理的思考力を補うことができた。発表資料にデータやグラフの記載をし、さらに説得力のあるものにしたい。
43	調べ学習だけでなく実際の調査を行ったことでより理解を深め、説得力を高めることができたが、得られたデータをグラフ化したり、専門的な用語を解説したりなどして、発表を見てくれる方々にとって、事前に知識が無くとも分かりやすい説明やスライド作りができれば良かった。
44	論文やデータをもとに結果を出し考察するのがむずかしかったが、様々な情報をもとに頑張ることができた。パワーポイントを見やすくするためには、もともとパソコンで見せる予定で作っていたものとは変える必要があると感じた。ポスターになって見やすくなったと感じた。
45	グラフなどを用いてデータを可視化できるようにすれば良かったと思った。

46	進学したい大学があるなら、その大学の興味のある教授の研究内容などをしっかり調べてから、それに関連させるような探求をすれば進路に生かせると思う（志望理由として使える）ので、1年生のみなさんは来年は個人の探求になると思うので、そうやって探求を進めたら自分の役に立つと思います。
47	ゴールをしっかり決めて近づいていくような探求をしたい。
48	調べた結果について、そこから自分の言葉でまとめるという力がついた。研究のテーマ名をもっと凝って、ひと目で何について調べているのかわかるようにしたい。また、研究の内容ももちろん大事だが、もっと表やグラフ、図を用いて見やすいスライドというのを意識して作っていきけるようにしたい。
49	今日大学の先生方がおっしゃっていたことを来年の発表に活かしてほしいし、自分も活かそうと思います。統計にも次の機会があったら挑戦してみたいなとも思いました。
50	もっと論理的に考えられる内容にする（自分が考えやすい）浅くなってしまったので深いところまでなんで？を突き詰める
51	もっと実体験に絡めて探究すればよかった。英語の論文を読む時に全て翻訳ではなくもう少し自分で読む努力をすればよかった。
52	自分が就きたい職種、業界についてよく調べられた。マーケティングは、単純に数字だけ見るのではなく、心理的な面や社会的な面を大きく反映した学問であったため、様々な観点からデータを収集、比較するのが楽しかった。業界的に、大きい企業であればあるほど参考になる調査内容だったため、アクティブな活動が出来ないのが残念だった。そのような場合は、インターネットでの企業の活動の様子を詳しく調査する方法がかなり有効だなと感じた。
53	データや数値を使った根拠のはっきりとした説明をすることができなかったのも、積極的に取り入れていくべきだと感じました。
54	根拠と主張をはっきりさせることが必要だと感じた。
55	第三者からのデータや考察・比較をもっとして分かりやすくしたい
56	自分のやりたいテーマに没頭しすぎると、主観的な価値観が先行してしまうことがあるので客観的な立場からの意見やデータを活用しながらできたらもっと聴者にわかりやすい発表になったと思う
57	人前で発表するという前向きに捉えて楽しく取り組むことができるようになった。自身の探究では、数値などのデータを用いて、より精度が高い内容にすればもっとよくなるとわかった。
58	なんか自分は今だから言えるがある程度ゴールが見えてる探求でまあまあまとまって無難な感じに終わってしまった。だからありきたりで落とし所がふんわり見えるようなのではなく、身近で思った疑問にすると自分から発露した興味に沿った方がやる気も完成度もえられる
59	自分のつくった問いを解決するために、自分で何をすれば解決できるかを考えて実践する力と人前で声を出して発表する力が身についた。自身の問いの解決策を考えるのに時間がかかって、十分に検証しきれなかったところもあったので、今回のことに限らず行き詰まったときはすぐに人に相談しようと思った。
60	データをもとに結論を導き出すのが難しかった。また、実験の正確性に課題が残ったため、これからも探究を続けていきたい。対話力が発表を通じて身に付いたため、これからの話し合いにいかしたい。

61	文献がほぼなく、考察や結論を出すのが難しかったので、同じテーマでも違うアプローチのしかたがよかったのではないかと思った。インターネットでも情報がなく、ほとんど主観で終わってしまったのが結論として弱かったと思う。もっと先生に聞いて研究の仕方を変えればよかった。
62	ただ調べてわかったことから自分の考えを書くだけになってしまったので、具体的な数値とか過去の研究とかがあればそれを使い考えを示すことでより、信ぴょう性が高まると思いました
63	一度作った内容をタイトルも含め見直すことで、根拠や合っているかなどより深められると思った。
64	ゴールがあるテーマにするべきである
65	データを集めて活用すべき。より広い視点から見ると説得力が増す。論理がとんだりしないで根拠があるかを確認すべき
66	もっとアドリブで話す練習をしてから本番に挑みたかった。
67	より深く探求するためにグラフや表を用いる客観的な検証を行えばよかった。
68	自分のしたいことを、する。
69	文系の探究のようにデータをとったりしない探究でも、図を利用するなど工夫してスライドを作ることで、興味をひくようなわかりやすい発表にできると思いました。
70	取り組みを通して探究的な思考力と質疑応答などでの臨機応変な対応力が身についたのでよかった
71	最終的には考えをまとめることができたのでよかった。
72	探究を進める上で自分が何をしたいのかを、手探りで探して見つけることができた。その分野に行くために、勉強するモチベーションを保つきっかけとなることができて良かった。
73	今回のSRHでは昨年度よりも多くの自分の興味のある分野についての探究を閲覧することができたので、有意義な時間を過ごすことができた。自分の友達や後輩の探究も見ることができたので、参考になりそうな発表の仕方やテーマ、調査方法などを新たに発見することが出来たので今後の探究に活かしたい。
74	取組によって、自分の音楽活動へ繋がられることもたくさん得られ、また、インタビューなどを通してコミュニケーションを取ることができよかった。
75	具体性を指摘されたので、その部分をもっとフォーカスしていきたい。

76	インターネットでの調査や、ORDでの調査などで様々な情報を得ることができたが、そのそれぞれの情報をどのように繋げてどのような結果を導き出せば良いのか分からなくなってしまう、また、ミニポスターの枚数制限もあり、全ての情報を活用することができなかった。次また探究活動をする機会があれば個々の情報を上手く繋げながら結果を導き出せるようにしたい。
77	自分の立てた仮説に基づいて、それにあった検証をすることができたので良かったです。冬休みの時とかをもっと活用したらもっと深まったと思いました
78	取り組みを通して調査した事をうまくまとめる力がついた。また探究と直接的な関係はないがパワーポイントの使い方が上手くなった。今回は表は使ったが、グラフを使うことがなかったので、自分も聴者も分かりやすい発表にできるように用いていきたいと思った。
79	もっとグラフなどを使って科学的な視点で探究をすれば良かった。
80	この新しい形の発表会はすごく良いなと思ったし楽しかった。ただ、自分の関係のある人だけに行ったりしちゃうのが勿体無いなとは感じた。
81	本当に知りたいと感じることは大抵抽象的だったから、もっと早く取り組んでそれ自体への解像度を高めて答えの出る問いを立てて取り組めれば良かったと思ったこれからはこの探求を通して見つけた問いに取り組みたい
82	ORDの時点で自分の探求の方向性が決まっていなくて、それを生かしたORDできなかったのも、後輩はテーマ決めをはやくするのをおすすめする。
83	自分の好きなことについて探究を通してより深められたことがいい経験になった。
84	自分の知りたいことについて自分で調べて理解を深めていく力がついた。今回私はデータなどを扱うことがなかったので、事実に基づいた探究になるようにデータや表などを活用したら良かったと思った。
85	自由観覧については不利益を被る人が発生することについてもっとよく考えるべきだったと思う。1年生のグループ発表のメンバーと、時間、場所の表が分かれていてとても見づらかった。そこは修正するべきだと思う。
86	調査結果と自分の見解を論理的に結びつけながら組み立てることが出来た。もっとデータを活用して数値的な根拠を示しながら探求を進められれば良かった。
87	質問を積極的にすればよかった。
88	今回は様々な条件下の考察をしたがより次年度ではより多くのことを考慮して、条件をなくしていきたい
89	オリジナルの考えを出したところまではできたので、これを実際にやってみて深めていきたい。
90	自分の好きな分野に対して、探究を通して新たな知識を得ることが出来た。また、探求発表を2回行ったことにより、1回目の反省を活かして2回目はより良い発表ができた。

91	タイトルをしっかり考えること
92	興味のあるテーマを探究することができたし、初めて聞く人にもわかりやすく発表するような構成を考えて発表できたのでよかった。来校していた先生にもアドバイスをいただけたり、評価してもらえたので自信になった。
93	自分が特に強調したいところによって対比の仕方は変わってくるからそこがはっきりするようにした。
94	探究テーマやスライドのテーマをわかりやすい結論として、その説明をスライドの内容とする
95	今回の問いで培った思考力を日々の勉強などにも意識して使っていきたい
96	プレゼンでのデータの表記に気を使うようになった。（どこから得たのか、データの大きさはなど）
97	今回テラフォーミングが可能かどうか調べたが字やグラフばかりで見づらかったため簡単な実験なども入れるべきだったと思いました
98	探究活動を通して、ただ本やインターネットで調べるだけでなく、問いや仮説を立てたり考察をしたりする力が身に付いたと思う。質問されたことに対してもすぐに詳しくこたえるなど対話力もあがったように感じる。今回できなかったことをさらに詳しく探究していきたい。
99	グラフを正確に読み取る力
100	自分の進路に対する探究をした事で大学でどのような事がしたいか分かってきたし、更に気になる事や探究したいことが出てきた
101	データの扱いをもっと気をつけるべきだった。自分の関心があることについて調べることができさらに進路に対して興味がわいた。
102	対話力や探究力がより高まった。自分の探究を客観的に見て考えられる質問を考えてそれについて深く考えることが必要だなと思った。
103	総探で得た力や学びを進路や面接などで活かせるようにしたいです。
104	質問への対応力が身についた
105	データの収集はできたが、自分で行う実験や調査票があまりできなかったため、そこを改善したい。この探究活動で得られた思考力を学習に活かしたい。
106	新たにでた問いや発表を通していただいた質問や意見を今後に活かしていきたい。
107	もっとデータを揃えて比較し、納得できる結果にたどり着くまで研究を続けていきたいと思った。
108	進学先でもこのような探究の発表の機会があると思うので、その場面では私なりに独自性のある探究をもう少しできたら良いと思った。
109	もっとデータを大切にすべきだった
110	もっと時間に余裕を持って取り組めれば良かったと感じた。

111	まとめに書くところをもっと吟味すべきだった
112	自分が出した結果や解釈を客観視してほんとにそうなのかと吟味したり、さらなる課題を見つけることでさらなる探究が深まると思ったのでそうしていればさらによかったと思いました。
113	データを収集して分析を抜け目なく行うことが大事。データによる考察が正しくできているか意識してほしい
114	グラフなども使っていけたらよかったなと思った
115	データを踏まえた特徴を持つ絵を描くなど本当にそうなのかを自分で試してみる実験的アクションをもっと行うべきだった。
116	探究したことを私生活に生かしていこうと思った。
117	自分の興味関心が専門的な分野になって理解できるようになるのが良かったと思いました。
118	もっと探求のときに論理的や肉体の構造的に調べればよかったなと思う。
119	次はもっと幅広くデータを取ってより正確な結果を出したい
120	見出しを気をつけていこうと思った。
121	グラフなどを用いて聞き手が納得できる根拠と結びつけて結論づけることがよりよいものとなる
122	テーマタイトルの設定に力を入れようと思った
123	3年では違う探求を行う
124	次の探究では、詳細のデータや例を挙げてより詳しく説得力を持った説明をしたい
125	進路に役立つと思った。
126	もっと色々な資料などを確認して深掘りしていけばよかった
127	私は今回コントラバスについての探究をして、この探究を進路に生かすことはできないけれども、これから来るであろう、新しくコントラバスを担当する1年生にコントラバスの良さについて、十分に話せたり、これから自信を持ってコントラバスを担当できる良い経験になったと思うので良かった。
128	もっと調査結果からの考察をしっかりしたり、その考察から新たに問いを立てて探究したりすればよかったと感じた。
129	自分のテーマに関することは抜かりなく調べる質問の技術を上げる
130	考えにどういうふうに説得力を持たせるかを意識して探究を進められました。先生がおっしゃっていたように自分も最初に提示したテーマと最後のまとめのずれが見られたので、最初から最後まで筋道の通ったものに仕上がったです。

131	結論は出したが、自分の探究のなかで、科学的要因と心理的要因を見つけられたので、具体的な数値と共に探究を続けて学習に結びつけたい。
132	今回つけた探究心やトーク力などをこれからの生活に活かしていきたい。
133	しっかりテーマを決める
134	今年は個人での探求だったため、あまり周りの人に頼らずに分析・まとめができたと思う。しかし、もっと図や実験などを組み込んだ発表にすればよかったと思った。
135	実験をもっとする
136	調べたら資料の実験の結果から自分のテーマの分析するうえでのポイントを見つけて、それを考察などとして話すことはできたが、それが本当にその結果につながるのかなど調べたらことの確認ができていなかったなので、より信頼度のある探究にするために意識したいと思った。
137	もっと探求したいテーマが沢山あった。自分なりに探究したい。
138	探究活動を通して得た結果から分析する力などをこれからの大学生活に活かしていきたいと思った
139	今回自分の将来に関係する内容を探究できたので、もっと他の場面に焦点をあてて考えを深めていきたいと思った。もっとみんなにとってわかりやすい発表になっていればもっとよかったかなと思った。グラフ、イラスト、表などを駆使して説明できるようになりたい。
140	自分なりに情報をまとめ、構成を考えて発表することができた。質疑にも答えられてよかった。実験結果を表じゃなくてグラフでまとめればもっとわかりやすかったなと思った。
141	自分の探究成果について、わかりやすくまとめることができて良かった。
142	日常生活に活かしていきたい
143	この探究で調べたことをもとに自分の将来の職業と関連させながら自分に求められる資質を考えていきたいです。
144	もっと質問に対する返答を考えとけば良かった
145	これからも頑張っしてほしいですね

146	本気で何かに打ち込むと言う体験が自分を成長させてくれると思います
147	実験の結果から、分析・考察をする力がついた。一方で、大学の教授がおっしゃっていた通り、スライドのタイトルが遠回しになっていたので、次に発表の機会があるときは、簡潔な結果・結論をまとめ、よりわかりやすいものにしたい。1年生の発表もどれも面白かったが、ただの調べ学習にならないように注意すれば、より良い探求になると感じた。
148	生徒自身にやらせるものだから発表の方法（スライドの構成や紙、電子の有無など）はこちらで決めさせてほしいと思った自由なところに行ってみるのは自分の興味関心が強いところに行けるため素晴らしいと思う。
149	漠然としたテーマで具体的に結論を述べるのができなかった点、細分化して考えるのができなかった点において、自身の研究の甘さを感じた。
150	自分の探究テーマは進路には直接関係しないけど、これから先タメになることを学べた。もっと色々なデータやグラフなどに触れて、より説得力のあるものにできればより良かったと思う。また、質問に上手く返せなかったところがあったので、事前に聞かれそうなことを予測して考えておくのが良いと感じた。
151	今年は自分1人で探求したこともあり去年よりも大変だったが、それ以上に自分の成長につながったと思う。特にトーク力の向上は人前であまり発表がない高校生活において貴重な経験となった。探求の楽しさに気づくことができたので、これからも探究しながら生活していきたい
152	自分の進路に関わる興味・関心に基づいた探究だとモチベーションが維持できると思った。
153	グラフなどを活用できる実験内容でなかったのも、より信ぴょう性や発展性が高い内容にできるよう考えていきたい。
154	よりデータを用いて視覚的に問いや結果を表せられたらよかった。
155	進路へのそうたんの影響が思っていたより多いと感じた。大学生活に向けてのいい機会になったと感じた。
156	この取り組みで自分の興味に沿った内容を楽しく探究できたため、モヤッとしていたことがスッキリ解決することができた、より良くするために大学の先生方が言っていたことを参考にしていきたい
157	取り組みを通して検証することの大切さを学んだ。
158	今日アドバイスしてもらったことを探求に活かしたい。
159	データを客観的に使用して、もっと説得力のある内容にできたと思う。
160	実験で得たデータを分析して結論を出す力を得られた。後輩にはしっかりデータを取って調べ学習で終わらせて欲しくない。

161	普段このような発表をする機会はないから貴重な経験になった。発表内容としてはまだまだだと思うので大学では頑張りたい
162	グラフや表を用いて、見やすい資料を作ることができた。わからない用語を一つずつ調べていくことでその分野の内容の理解が深まった。幅広く調べられたら良い。
163	喋りたいことを紙に箇条書きでまとめておけばよかった
164	自分の中で得た情報を噛み砕くのは危険であるため、正しい情報を得るための作業が重要
165	根拠のあるデータかどうか考える必要があることが分かりました。
166	もっとスライドの文字量を減らして、図やイラストを入れてパッと見て惹かれるスライドが作ればよかった
167	さらに詳しく、深く調べしっかりとした根拠を持ち説得力を増す。データなどを用いてより詳しく説明できた。今回の仕組みより去年の仕組みのほうがいいと感じた
168	スライドにもっと図などを入れるべきだった
169	ただの自由研究になってしまわないように自分の考えと調べたことの対比をしっかりと述べないと総探の意味がないと思う
170	自分で実際に実験してみる方が面白い探究になると思った。
171	データを活用できるのであれば使った方が説得力は高まると感じた。
172	客観化した情報にする
173	文字だけのスライドではなく、表やグラフを用いたスライドの方が見やすいと思った。探求のテーマをもっとわかりやすくするべきだと思った。
174	説明が上手くなった
175	自分が好きなことを調べられてとても楽しんで探求できた。
176	必要な資料を集めてそこから分析する力やわかりやすくまとめる力がついた一方でデメリットがあまり調べられていなかったり、自分なりの実験とかが取り入れられていなかったのもっと深めて行ければよかったと思う。また、今の社会について細かく分割してその一つ一つにどのように活用されるべきかの答えを出せばもっと深い探究になったと思う。
177	1年間探究するからまだやんなくてもなんとかなると思っていたけど、あっという間に発表を迎えてしまった。
178	そうたんの時間は少ないから効率と精度を上げて活動していかなければならないこと。
179	だいぶ体を張った研究内容だったので、持続力のあるものにできれば良かったなと思います。
180	今年1年で探究したことを来年はまとめられるようにしたい

181	論文を上手く書けるよう頑張りたい
182	データを使った探求が少なかったので、実際に使ったり、相関を出したりして来年度の探求をすすめていきたい。
183	早い段階で目的を明確に決めておくべきだった
184	自分のテーマに沿って昨年よりも深く掘り下げることができた。色々な視点からの探求を聞いて新たな発見があった。
185	次年度は自分の探究を続け、あわよくば後輩に引き継いでほしいと思っている。
186	人に発表することで自分の発表は目的と結論が完全に合ってなかったなので、これからまとめ直していきたい
187	一回の実験にかかる時間を逆算して予定を立てることが難しくて発表に間に合わなかったり、実験を中断したりすることがあったので、もっと計画性持って行動すべきだったなと思いました。
188	グラフは縦軸と横軸を明記し、得られたデータはしっかり発表に使うことを意識できた。視覚的にわかりやすくなった。
189	発表練習は沢山したほうがいい
190	がんばる
191	もっと計画をきちんと立てて実験を多くすればよかった
192	発表の時にもう少し比率を考えれば良かった。重要じゃないところに時間を多くかけすぎた。
193	考察にあった実験をすることが難しかった
194	グラフは単位を揃えてやった方が詐欺と言われなくなる。
195	特に生物は1つの実験に時間がかかることが多いのでしっかり逆算して余裕を持って取り組むことが大切
196	理探の研究でついた粘り強さを大学での研究に活かしていきたいです。
197	天の発表で、実際に活動を行っているところに目を向けて考えることも大切だと思った
198	先行研究をもっと詳しく調べればよかった
199	テーマはできるだけ早く決め、実験に時間を割くべきです。たくさんのデータを集めた方が勝ちです。
200	自分たちなりに結論づけることができた。時間配分を意識していきたい。

201	生物の実験においては、「酵素」というのも考えた方が良いと分かった。
202	論理的に目標に向かって探究する力がついた。
203	先生方のアドバイスを大切にする
204	発表の仕方も工夫できた。
205	明確な目標のもと対照実験など今までの理科的な知識を総動員して探求できた。後輩にはもっと早くから計画を立てるべきだとアドバイスしたい。
206	個人探究のデータ分析の際に調べた情報だけでなく、アンケートなどを実施したらさらに質の良い物になるとおもった。探究のプロセスが身についた。
207	大学で研究をする際には、今回のようなPDCAサイクルを生かしながら頑張っていきたい。
208	もっと目的を最初に確認して何をすれば良いか早い段階で考えるべきだった。
209	グラフなどの作り方を事前に学習できてたらよかった。
210	探究を通して見やすいスライド作りや論文の書き方など専門的なことを学べた。
211	今年は音波消火器について探究することができた。先行研究の再現実験から始まり先行研究で明らかになってないところも自分たちなりの結果を見いだせた。来年以降の後輩には結果について有意性があるかなど判断するときはT検定をしたりしっかりした証拠がある判断をして欲しい
212	ミスせずに時間通りに発表できたし、思考力と理解力が上がった。
213	発表の前はとても忙しくなるので、余裕を持ってパワポなどを作りはじめていてもいいと思った。
214	探求を通して論理的思考力を身につけることができたと思います。反省としては、一年間の見通しが少し甘かったことで、もっと計画性を持つべきだったと感じます。
215	誤差が考えられる場合は安易に棒グラフや折れ線にせず、散布図などの平均を取らないグラフにする勇気が必要だということを学んだ。また、PPを作る上で要点をきいつまんで話す力がついた。今年度の探究の成果もA0IIを受ける武器にしたい。
216	データを数値にし、それをもとにグラフや表を作ることが大切だと感じた。
217	探究に対する考え方を学ぶことができたので、これから探究活動をする際は実験の仕方などを活かして取り組みたい。今回の探究で、コミュニケーションをあまりとれなかったのが、改善したい。
218	自分にとっては当たり前だと思っていたことでも探究している人の発表を聞いたらまた違った視点で考えることができて面白かった
219	後輩は探究をやっているうちに目的が曖昧にならないように目的をしっかりと立ててほしい
220	先入観に囚われず根拠に基いて考える力

221	計画に時間をかけるのも大事だけど、実際に実験などをやってみると急に考えが深まったりするので、行動にうつすことを大事にしたいと思った。
222	探求の面白さを実感できた
223	探究テーマは早く確立させた方がいい。1年である程度できる、いつでも取り組める内容にすると困らない。もっと交流して、内容を精査していくべき。
224	正しい実験のやり方がわかった
225	論理的に考えられる力が身についた。テーマ決めが遅く、ベストの実力で挑めなかった発表があったので日頃から疑問のことを見つけながら生活して欲しい
226	ホーンの形状や実用化に向けての実験を行うための時間が足りないと思いました。これからは限られた時間でも、全国大会に向けて実験を重ねて成果を出せるように頑張りたいと思います。
227	研究に対する基礎知識を身に付けられたし、様々な貴重な体験ができて、進路にも役立てられそうだったと思った。

キ 3 学年 (61 回生) 自由記述

No	回答
1	Web検索が多めになっていたため、先行研究の論文をもっと沢山読見たかったなと思った。進学先では心理と教育に関する研究をしたいと思う。
2	自分の探究をミニ論文にまとめることができた。
3	探求学習の見積もり、スケジュールの日程について甘く見ていた。計画を定期的に見直すこと、誰かに計画についての意見をもらうことが必要だったのではないかと思った。
4	たくさんの種類の論文を比較するべきだった
5	時間を大切に頑張ってください！外部へ積極的に出向くのも大事だと思います。
6	自分の研究を自分の言葉でまとめ、それをプレゼンできる力がついた。時間との勝負だと思うので、空いている時間の有効活用をして、自分ならではの研究をがんばってほしい。
7	論文は指定された型があるので、文字のフォントやサイズなど、細かいところまで気を付けていきたいです。
8	型にはまりすぎず、心から探究したいと思えることを見つけて、もっと時間に余裕を持って進めれば良かったです。
9	大学での学びにも活かしたい
10	自分が普段意識していない動作について意識するきっかけとなり有意義な時間であった。進学先では運動・スポーツ分野についてさらに深められるようにしたい。
11	興味のある内容を研究すると自ずと深い研究ができる
12	最終的に知りたいことから逆算して、何が分かれば良いのかを考えて調査を進めることができた
13	面接で総探のテーマについて少し聞かれたので、そういった受験の方法を考えている人はより真剣に取り組んだ方がいいと思います。
14	探求活動を通し、データを根拠に論理的思考を行い、その過程と結論を自分の言葉で客観的に述べる力が身についた。この力を、大学での研究にも活かしていきたい。
15	「探究は受験につながらない」という雰囲気が学校全体に残っているように思う。「自分が今理解できる範囲での利益」だけを追究しない。食わず嫌いはあまりにももったいない。答えのないことに挑んでいく面白さに気づいてほしい。自分の好きなこと、夢中になっていることを遠慮せず語り合える学校であってほしい。実はそのことが総合型、学校推薦の1番の対策だったりする。(自分の経験より)

16	大学に行ってからでも探究活動を自主的に行う機会が多々あると思うので、高校生活で身につけた探究の力を発揮していきたい。
17	とりあえず何をやればわからない人は目指す進学先に合わせた探究テーマを設定すれば間違い無いと思います。
18	もう少し実験ができれば発表の時に自信がつくと思った。
19	複数の先行研究を比較しながら検証することができた。自身で身近な人に調査を行えば良かった。
20	大学生になったら自分で課題を見つけ、それを探究する機会がより多くなると思うので、高校生活で身につけた能力を最大限活かして行きたい。
21	データと時間が足りずあまり深く考察することができなかったのが残念だった。後輩には、早いうちから探求を進めるようにしてほしい。後から調べたいことが増えたり、変更したい箇所が出てきたりするので、時間があるに越したことはない。
22	問題設定から解決までの道のりを体験することができた。自分なりの方法を探りつつこれからも身の回りの事に関心を寄せて生活していきたい。
23	用いるデータや研究の仕方、内容をよく吟味したことで思考力を深めることができた自分が作った問いに対する研究方法が趣旨とずれてしまったり、研究を進める中で本来目標としていたところから外れてしまうことがあるのでぜひ気をつけてほしい
24	マーケティングの種類が豊富にあって、心理学的なもの組み合わせられているのがとても面白いと思った。法律的に許されていないものが、オンラインだと取り締まりにくいから、店舗との差がうまれたのかなと思ったので、次はそこも合わせて考えてみたい。1つの分野にこだわらず、色々な学問の視点で分析するのがとても楽しかった。
25	些細な事でも日常の中で興味を持った物をあらかじめ覚えておいて、探求テーマを決める際に形式的な問いなどでなくて自分の興味や関心が強くひかれる物に関連したテーマをきめればよかった。
26	あまり固く考えずに好きなことを研究して欲しい。そして資料は三つ以上ないと中身がなくなりやすいので気をつけて欲しい。
27	大学では高校のときに科学的に調べられなかったところを詳しく調べ、自分の力にしたり、周りの人々にも還元できるようにしていきたい。
28	去年に比べ、より積極的に探究することができた。（後輩へ向けて）どんなにくだらないと感じることで、自分の興味関心のある事柄を探究してほしい。多分そのほうが今後の人生も楽しくなるから。
29	自分の進路である経済系についてのテーマをたてて、より経済に関する関心を高めながら研究を行うことができた。
30	論文の雛形が欲しかった。各自で程度の差や深度、進度に差があったのが気になった。自分も限られた時間でどこまで踏み込めば良いかわからないところが多かったなので、そこを考えていただきたい。

31	コミュニケーションというものを多角的に捉えることができるようになった。
32	グループワークの時に自分から率先して、話を進められるように頑張りたい。
33	自分の興味のある分野について深めることができた。もっとデータを活用して探究出来れば良かったと思う。
34	自由な時間を活用してより多くの自分の興味関心に関わる問題に対して探究をしていきたい。
35	人との関わりとそこで得られる学びを大事にしたい
36	文献を沢山読むと良い。
37	なかなか探求テーマが決まらなかったのが普段から身の回りに目を向けて疑問を見つけることが大切だと思った。
38	総合的な探求の時間の中で身につけた、情報収集能力や自身の興味深いことを掘り下げる良いクセを進学先でも活かしていきたい。また、私自身はできなかったが直接人との対話を大切にすることで1次情報を得られるので、学校全体で取り組みを作っていたら更に積極的な活動が出来ると感じました。
39	一次情報は入れた方がいい
40	独自のフィールドワークのみで、探求する事業に携わる人への聞き込みはできなかった。説得力のある発表にするためにもやるべきだった。個人総探が始まる前の「自分と背景が異なる人を探す」というものがよくわからなかった。
41	もっと様々な論文や研究について調べればよかった
42	進路に関わる話題を探求すると、より自分の未来像がはっきりして、大学選びにも役立つので、真面目に探求するといいです
43	インターネットで調べるだけでなく、もっと積極的に行動して情報を得る努力をすればよかった。研究を通して学んだことや考えたことは大学入試や今後にも絶対に生きてくるので、後輩の皆さんは探究の時間を軽視しないでほしい。またテーマ設定は自分の興味のあることだけでなく進路に関係することだと熱意をもって取り組めると思う。
44	探究のテーマをもう少し有意義なものにするとよかったと思いました
45	働きすぎは良くないと改めてわかったし、それを予防する方法も分かった

46	大学生活でたくさんの資料に当たりながら、自分なりの答えを作って行きたい。
47	他者の研究に対し、自分の研究等を通して得た知識や考え方を基に意見や質問をする力が身についた。
48	大学へ送付する資料に使うなど、どこで役立つかわからないので気持ちを込めて取り組みましょう。
49	自分の興味のあることを、自分の視点で深めていったほうがいい→モチベーションがなくなったり楽しくなくなると思います
50	もっと自分が好きなことを探求すべきだった。
51	地域について調べる機会を得られたし、調べたことが進学先での学びに繋がると思うから、得たことを忘れずに活かしたい。
52	進路が大幅に変わったため直接的に自身の将来に関わることは無いが、調査や統計の練習になったと思う。
53	もっと沢山実験、実際にやってみるとかをすれば良かった
54	多様な視点が身についた
55	2年生のときに行ったSRH発表会でもらった意見をもとに、自分の探究を深めることができました。しかし、調べ学習中心の探究になってしまったので、後輩には調べる以外の方法でも一次情報を得るよう心がけて欲しいです。
56	総合的な探究の時間を通して、自分の進路に関係する事柄に触れながら、自分が興味のあるものについて探究することができた。この活動を通して、得られたことをもとに更に探究することの大切さや、自分の興味関心のあることを突き詰めることの重要性などを学んだ。進学先ではもっと自分の興味のあることを深められると思うので、今までの活動をしっかり活かしていきたい。
57	進路に関わる分野を探求することで自分の進路への興味や考えが深まると思った
58	もっと広い視野で研究を行えば良かった。
59	調べれば調べるほど疑問が出てきて面白いので、やる前から面倒くさがらずに一回ちゃんと頑張ってみてほしい。
60	哲学について探求したが、誰かと共に深めることが難しいテーマなので、1人でガツガツと進めたい人以外はこのテーマはやらない方がいいと思った。

61	進学先で学びたいことを探求内容にすれば良かったと思いました
62	総探に取り組むことで進路を考えるきっかけになった。
63	もっと身近なテーマを探究してみたいと思った
64	ライトノベル市場の変遷と読み手の欲求をあおるために
65	自分の興味のあることについて詳しく調べられた。
66	実例や自分の考えを入れると説得力のあるものになると思った。
67	3年生の受験の時期になってから、総探の大切さに気づいた。もっと時間を有効に使えばよかったと思う。総探を深く取り組んでいくことで大学受験の際に自分の選択肢が広がるということを（今年も言っていたのかもしれないが）もっと強調して言ってもいいのかなと思った。
68	ささいなことでもいいから、ふと思いついた事などが探究の良いテーマになったりアイデアになるからメモをとっておいた方がいい
69	入試にも活かせてよかった。
70	仮説を検証するために、どんな情報が必要なのかを考える力がついた一次情報を得られなかった
71	学問的なものに固執する必要はない。自分が興味のあることを研究した方が楽しい。
72	ただ調べた情報だけを書くのではなく、自分の意見や考えと結びつけていくといいと思う。
73	自分の進路につながるテーマにしたほうが、試験に役立つと思います
74	答えが出ない・出せない問は、まとめ方が難しく発表でかなり苦勞したので、結論が出しやすいような問いの方がおすすめです。
75	課題設定は具体的であればあるほど後で楽になる。
76	疑問を持ち続けること
77	発表まで時間があるように思えて意外とあっという間なので、1時間1時間大切に研究をすれば良かったと思いました。
78	信頼できるデータをベースにして探究すると良い。
79	自分の進路とは違うテーマで探求をしたので、進路の参考にはならなかったが、普段触れることのない分野について理解を深められたので良かった。
80	データ等を駆使して調べることができた。大学の研究においてもデータを大切にしたい

81	自分の興味のあることを調べることができ、有意義な時間となった。
82	何事にも広い視野を持って自分の興味関心があることを発見し、それについて探求する力がついた。自分のやりたい研究をすることはとても楽しかった。友達との話し合いもよいものだったと思う。今年の総探で身につけたことを、大学などでの研究でも活かしていきたい。
83	データを使うことでより分かりやすくなるから積極的に使うべき。
84	質問に対して臨機応変に対応できた。
85	計画的にかつ積極的に行動できるようにしたい
86	自分の進路と関係するテーマにするといいとおもいます
87	今後も自分の気になったことをどんどん探求していきたいです。
88	業徒ながらもパワポを生業に生きていきたい
89	自分の研究分野に対して広い範囲で見えてしまっていて、深掘りするのが難しかった。視点を絞って研究することで、もっと深くできればよかったかなと思った。
90	結論ありきの研究、結論が人それぞれに終わる研究はつまらないのでそれは避けていきたいし、避けて欲しいと思った
91	もっと準備を念入りにしておくべきだった
92	身近な様々な場面で気付き、考え、調べることで探究心を大切にしていきたいと思います。
93	自分の進路に関わるテーマで探究をすれば良かったと感じた
94	もっと時間をかけて色々な方法を用いて検証したい
95	情報量が少なかったのでもっと調べればよかった。
96	進路と結びつけられればよかったと思う
97	実際に専門的に学んでいる人の話を聞くことができてよかった。
98	自分で色んな視点から調べたりできたけど、文献を探すまでに時間がかかってしまったなと思いました。これから研究する時に総探で学んだことを活かせるように頑張ります。
99	身近にある些細な疑問を探究する方が、取り組みやすくて色々なアプローチが出来るので、テーマが決まってない時には身の回りのものについて探究することをオススメしたい。
100	主体的な学びを深めていきたい。

101	もっと多くのデータを比較すればよかった
102	大学でもスポーツのことについて研究したいと考えています。
103	研究内容に一貫性をもたせることが重要になると思います。
104	自分の進路に役立つテーマにする
105	論文にして書くことで論理的思考力が高まった。小論文対策については、別のやり方があったんじゃないかなとはおもった。(相互添削)
106	情報収集を本や大学の先生に聞きに行くなど工夫するべきだった
107	総探で調べたことを大学でいかしたい。
108	特になし
109	大学でも活かしたい。
110	準備をもっと濃くしておけばよかった。早めの準備に越したことがないと思った。
111	探求力がついた
112	大学で研究する際に、学んだプロセスを活かしていきたい。
113	テーマはよく考えましょう。
114	大風呂敷を広げすぎない
115	テーマ選びに時間をかけましょう
116	自分の行きたい進路の方向性をよく考えて、その分野の探究をすべき。
117	一次情報を自分で得ることの大切さを学んだ
118	前もって準備することをおすすめします
119	調べ学習のようなものになってしまうことが多かった。1次情報を取り入れられると良かった。
120	自分の将来に関係しそうな分野に対しての疑問を学校の授業を通して探究できて良かった。自分の探求に対してのフィードバックが貰える貴重な機会となってよかった。

121	探究学習はできるだけ大学の志望分野に関わる内容を学ぶ機会とするべきだと思います。全く関係のない分野を探究している人も多いと感じました。
122	探求では様々な情報を用いて、自分の調べたいことを調べることができた。探求活動の中で、気になることやよく分からない部分を見つけて調べる、学びを深める力がついたと思う。一方で、探求する内容は自分の進路と関係のあることにすれば良かったと感じた。
123	1次情報を大切にするといい探究が出来ると思う
124	入試の面接で自分の強みとして探求活動をアピールすることができた。将来のことや、進路のことを探究し、自分自身の考えも明確にしたり、理解することができた良い機会だった。進路や将来に関わることを探求すること。調べるだけではなく、実際にインタビューしたりと経験を大事にしてほしい。
125	浅いレベルの調べ学習程度の活動になるならもはややらない方がいい。
126	進路ややりたいことが決まっている人はその内容の探求を幅広く行った方が良いと思う。大学入学後はより深く探求することになるだろうから、入口に立つようなつもりで取り組むと良いと思う。
127	探求は、自分の進路に関わるものをやるべきです。誰かのための探求でもあるけど、自分のためにいちばんに考えて取り組むといいと思います。
128	総探でやった研究内容を生かして大学でも研究に励みたい。
129	考え調べていく中で新しい疑問が生まれ、どんどん知識や内容が発展していくのが楽しかったし、自分の力にもなった。進路に関係する分野の探究をすることが大切だと感じた。
130	調べたことをまとめ、資料を作って相手に伝えることは大学やこれからの進路で生かされれると思った。
131	取り組みを経て、自分の希望する進路の分野に対する知識や興味が深まった。複数のデータや論文を活用して考えることが大切だと感じた。
132	目標をもって取りかからないと、途中で見失ってつまづいてしまうので、最初の時点で何を調べたいかをしっかり固めることが大切だと思います。
133	結果からもう少し深く考察をすればよかった。
134	ネットで調べるだけでなく、実験をしたりすることで知識をより深められればよかった。
135	自分の興味がある分野と進路に関わる分野を結びつけることが大事。

136	3年生で論文を書くのは忙しいので早め早めに終わらせることを推奨する。2、3年理探同士の交流があったら面白かったな、と思う。(4月のグループ分け辺りで前年度何をやってたかを聞き、研究を引き継ぐか否か決める)(探究のコツとか聞いたかった)
137	計画を綿密にたてないと発表前に長時間残らないと行けなくなるから気をつけた方がいい
138	いかに先入観を捨てて実験・考察できるかが重要だと思う。これまでの研究活動を通して、具体的な仮説を立てる力は必要だが、仮説を信じたまま実験や分析を行うことはあまり効果的ではないと感じたので、多面的に物事を見ることを大切にしたい方が良さ。
139	データの処理の仕方を学んだ
140	報連相はしっかりやるのが大切だと思った
141	研究の予定は早め早めに決めておくべきだった。パワーポイント、ワードでの資料作りの力がついた。
142	自分考えを出す力と、逆に人の考えを聞く力が身についた
143	物理的、化学的の両方の視点からもっと実験、考察すればより深い結果が得られたと思う。
144	研究を通して、自分たちで決めた課題を突き詰めることの面白さに気づくことができ、自分の進路を考える1つの材料となりました。来年度からも探究が面白いと思える人が1人でも多く増えると良いと思います。
145	割と多くのことを自分たちでやらなければならなかったのも、1から生み出す大変さがわかったし、とても面白かった。探究の活動を通して、他人と協力しながら作業を行えたり、違った視点からのアイデアを得られたりといった共同研究の良さを知ることができた。また、研究を進める上では仮説を立ててしっかり記録しておくことが深みのある研究には必要だと思うので後輩にはそれを頑張ってもらいたい。
146	データとしてではなく文字として記録に残しておくことはとても大切
147	様々な視点から物事を考えることの大切さが分かった
148	実現可能な計画を立てるべき
149	総合的な探求や全国高総文祭での経験や学んだことなどを大学の活動でも活用してきた
150	研究テーマを決めるときもっと現実性を考えて決めればよかった

151	もう少し、細かく考察を立てて実験をするべきだった
152	論理的に考え、言語化するトレーニングをすることができ、大学へ進学してからの研究、学習にも役立てようと思う！
153	もっと文章を書ければよかった
154	締切を見据えて早めに動くことが大事。どうまとめれば自分たちの示したいことが伝わるかを考えてまとめる。
155	進学した先でも総合的な探究の時間で学んだことをいかして、さらに深めて行きたい
156	早めに研究を進めていく方向をはっきりさせておけば良いと思いました
157	最初のうちから要る要らないに関わらず沢山情報を集めて早めに実験に取り組めたら良かった
158	自分が興味を持っていることについて研究できて本当に良かった。社会の問題を解決することも重要ではあるが、自分の好きなことと結びつけることができれば、よりおもしろい研究ができると思う。自分の夢を実現できるように、大学での研究活動にも全力を尽くしていきたい。
159	自分一人では考えられなかった案を周囲の方々から多く戴いた。人との関係を大切にしようと思う。時間とチームメンバーの日程管理を怠らないようにすると良い。
160	研究活動では、テーマがなかなか決まらなかったり、思うような結果が得られなかったりしたが、その度に仲間と悩み、考え、改善していくことができたため、この「問題を解決する能力」を大学でも活かしていきたい。
161	探求を通じて多角的な視点や相手にわかりやすく話す技術が身についた。理数探求コースに入って良かったととても思う。
162	やることがはっきりしていないと苦勞する事が多い
163	実験をする際は何をするのか、何のためにするのか、どのような結果を得たいのかなどの目的を定めてから行うべきだと感じた。
164	探究活動を通して培った研究に対する意欲を忘れることなく、大学でも自分が興味を持ったことに対して研究することをがんばりたい。
165	大変だけど、協力して取り組めて良かったです。後輩の皆さんもめげずにがんばって欲しいです。
166	できるだけ早くに取り組むことが大切だと思います
167	頑張って作ったので、作ったポスターをぜひ掲示してほしい。下調べをしたりや文献資料を読み漁ったりする時間もしっかり取るのが大切だと思った。

10 おわりに

本校は、平成 23 年度から平成 28 年度までの SSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）事業、そして平成 29 年度からの SRH（サイエンス・リサーチ・ハイスクール）事業を通して、探究的な学びの充実に継続して取り組んできました。これらの取組を通じて、生徒一人ひとりが自ら課題を発見し、情報を収集・分析しながら考察を深め、その成果を他者に伝えるという一連の探究活動のプロセスを経験してきました。また、地域社会や大学、研究機関との連携を通じて、多様な価値観や専門的知見に触れることで、より深い学びへとつなげてきました。

9 年間にわたる SRH 事業の歩みは、本校の教育活動に大きな成果をもたらした一方、社会は急速に変化を続けており、人工知能やデジタル技術の進展、地球規模での環境問題、人口減少や地域社会の課題など、これまで以上に複雑で予測困難な時代を迎えています。そのような社会において求められるのは、既存の知識や技能を身に付けるだけではなく、自ら問いを立て、多様な情報をもとに考察し、他者と協働しながら新たな価値を創造していく力です。

探究活動は、まさにそのような力を育む教育活動であり、本校ではこれまでも、その重要性を強く認識しながら実践を積み重ねてきました。一つの節目を迎える SRH 事業ですが、その理念や成果が終わるわけではありません。今後、これまで培われてきた経験や知見を「総合的な探究の時間」と有機的に融合させ、新たな「ORP（おひとりリサーチプロジェクト）」として発展的に継承していきます。

ORP は、SSH、そして SRH によって培われてきた探究の文化を継承しながら、生徒一人ひとりの主体的な学びをさらに充実させ、地域社会や世界とつながる新たな学びを創造していくための取組です。これまでの科学的探究に加え、人文・社会科学的な視点や地域課題、国際的な視野を取り入れることで、生徒たちが多様な価値観に触れながら、自らの可能性を広げていくことを目指しています。また、探究活動を通じて育まれる主体性や協働性、論理的思考力、表現力は、大学進学後や将来社会に出てからも必要とされる重要な資質・能力です。知識や技能の習得のみならず、生涯にわたって学び続ける姿勢を身に付けることは、これからの時代を生きる若者たちにとって不可欠なものとなっています。

本校では、探究活動を学校教育の中心的な柱の一つとして位置付け、生徒一人ひとりが自らの興味・関心に基づき、主体的に学び続けることのできる教育環境の充実に努めていきます。さらに、大学や研究機関、地域社会との連携を一層推進し、教科横断的な学びや実社会とのつながりを重視した探究活動を展開することで、生徒たちの可能性を最大限に引き出していきます。

変化の激しい時代であるからこそ、自ら考え、他者と協働しながら未来を切り拓いていく人材の育成が求められています。本校は、これからも探究的な学びを通して、生徒一人ひとりの夢や志の実現を支援するとともに、地域社会や国際社会の発展に貢献できる人材の育成に努めてまいります。